

JICA 九州主催 2021 年度 開発教育指導者研修 報告書

九州在住（勤務）の小・中・高校および特別支援学校の先生方へ！
開発教育・国際理解教育・SDGs学習を授業にとり入れてみませんか？

JICA九州主催 2021年度 開発教育指導者研修 中級編



2021年12月12日（日）13:00～18:00
2022年1月16日（日）13:00～18:00
*研修内容は同じです。ご都合の良い日程をお選びください。

参加費 無料
オンライン 開催

主催：独立行政法人国際協力機構 九州センター 



JICA九州主催 2021年度
開発教育指導者研修
初級編：参加者募集

参加費 無料

対象：九州在住（勤務）の小・中・高校および特別支援学校の教員
会場：Zoomによるオンライン



児童・生徒の主体的な学びにつながる参加型学習の手法について学ぶ研修です。
講義と体験を通し開発教育・国際理解教育・SDGsへの理解を深め、授業実践を目指します。

主催：独立行政法人国際協力機構 九州センター 

九州在住（勤務）の小・中・高校および特別支援学校の先生方へ！

JICA九州主催 2021年度 開発教育指導者研修 学びあい編



開発教育・国際理解教育・SDGsに関する学習
（について）
授業実践発表や意見交換を通して、
地域の先生たちとつながりませんか？

2022年1月30日（日）13:30～16:30
（対象：福岡県・大分県に在住（勤務）の先生）
2022年2月6日（日）13:30～17:00
（対象：佐賀県・長崎県・熊本県に在住（勤務）の先生）
2022年2月13日（日）13:30～16:30
（対象：宮崎県・鹿児島県に在住（勤務）の先生）
*要事前申し込み（各回先着20名）

参加費 無料
オンライン 開催

主催：独立行政法人国際協力機構 九州センター 

- 目 次 -

JICA 九州開発教育指導者研修の概要 1 ページ

■JICA 九州開発教育指導者研修の目的

■JICA 九州開発教育指導者研修の内容

JICA 九州開発教育指導者研修・初級編 3 ページ

■開催概要

■ねらい

■プログラムの内容 -第1回目-

第1回目-①

第1回目-②

第1回目-③

■第1回目アンケート結果

■プログラムの内容 -第2回目-

第2回目-①

第2回目-②

第2回目-③

■第2回目アンケート結果

JICA 九州開発教育指導者研修・中級編 27 ページ

■開催概要

■ねらい

■プログラムの内容 -第1回目-

■第1回目アンケート結果

■プログラムの内容 -第2回目-

■第2回目アンケート結果

JICA 九州開発教育指導者研修・学びあい編 37 ページ

■開催概要

■ねらい

■プログラムの内容 -第1回目（福岡県・大分県対象）-

■第1回目アンケート結果

■プログラムの内容 -第2回目（佐賀県・長崎県・熊本県対象）-

■第2回目アンケート結果

■プログラムの内容 -第3回目（宮崎県・鹿児島県対象）-

■第3回目アンケート結果

JICA 九州開発教育指導者研修の概要

■JICA 九州開発教育指導者研修の目的

- ・ 開発教育について学び、授業で実践を行えるスキルを身につける。
- ・ 担当クラスでの実践と所属する学校で学びの共有を行う。
- ・ 参加者同士の横のつながり（ネットワーク）をつくり、継続的に学びあいや情報共有を行う。

■JICA 九州開発教育指導者研修の内容

- ・ 日程および内容

	日時	内容
初級編 1 福岡県・佐賀県・長崎県の先生対象	2021年10月17日(日) 13:00～16:00	開発教育、国際理科教育、SDGsに関する学習についての講義
	2021年10月24日(日) 13:30～17:30	参加型手法の体験と解説
	2021年11月7日(日) 13:30～17:30	参加型手法を取り入れた授業案の発表
初級編 2 熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県の先生対象	2021年11月14日(日) 13:00～16:00	開発教育、国際理科教育、SDGsに関する学習についての講義
	2021年11月21日(日) 13:30～17:30	参加型手法の体験と解説
	2021年12月5日(日) 13:30～17:30	参加型手法を取り入れた授業案の発表
中級編 1	2021年12月12日(日) 13:00～18:00	2つのワークショップの体験と解説 授業アレンジについての検討
中級編 2	2022年1月16日(日) 13:00～18:00	2つのワークショップの体験と解説 授業アレンジについての検討
学びあい編 1 福岡県・大分県の先生対象	2022年1月30日(日) 13:30～16:30	対象県の教員による授業実践発表 教員同士のグループワーク

	日時	内容
学びあい編2 佐賀県・長崎 県・熊本県の先 生対象	2022年2月6日(日) 13:30~17:00	対象県の教員による授業実践発表 教員同士のグループワーク
学びあい編3 宮崎県・鹿児島 県の先生対象	2022年2月13日(日) 13:30~16:30	対象県の教員による授業実践発表 教員同士のグループワーク

・場所

Zoomによるオンライン研修

・対象

九州在住(勤務)の小・中・高校および特別支援学校の教員

JICA 九州開発教育指導者研修・初級編

■開催概要

・日時 *各回3回(以下①～③)受講の連続講座

第1回目：福岡県・佐賀県・長崎県の先生対象	① 2021年10月17日(日) 13:00～16:00
	② 2021年10月24日(日) 13:30～17:30
	③ 2021年11月7日(日) 13:30～17:30
第2回目：熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県の先生対象	① 2021年11月14日(日) 13:00～16:00
	② 2021年11月21日(日) 13:30～17:30
	③ 2021年12月5日(日) 13:30～17:30

・場所

Zoomによるオンライン

・参加者内訳および参加者数

第1回目／小学校1名・中学校1名・高等学校1名・その他2名

第2回目／小学校2名・中学校2名・高等学校6名・市教育センター1名

・講師／ファシリテーター：

① 藤原 孝章氏(同志社女子大学現代社会学部現代こども学科特任教授)

②および③ 津田 かおり氏(公益社団法人 青年海外協力協会(JOCA 大阪))

■ねらい

① 開発教育の概念の理解とSDGsについて理解を深める。

② 参加型学習の手法を実際に受講することで、各手法の理解や使い方のヒントを得る。

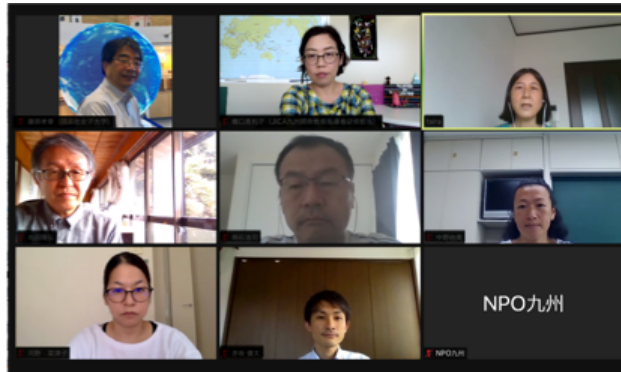
③ 受講者自身の計画発表と他者の発表を通じ、実践に向かう心構えを得る。

■プログラムの内容 -第1回目-

【第1回目-①】

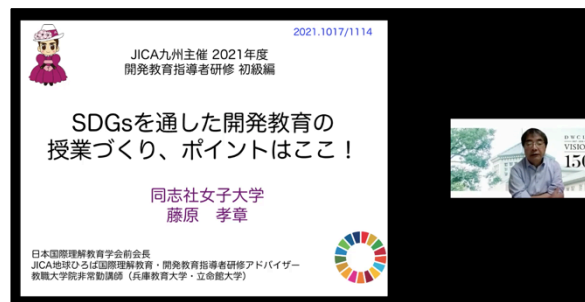
・開会、主催者挨拶：JICA九州 市民参加協力課 平知子課長

- 進行の自己紹介ののち、JICA 九州市民参加協力の平課長が開会の挨拶を行なった。



- 研修趣旨及び目的説明
 - 本研修の目的及び初級編の「ねらい」（上述）についてと本日の内容説明を行なった。
- グラウンドルール説明
 - 参加型学習に必要な参加の場づくりについて説明した。
- Zoom の使い方
 - Zoom の基本の使い方や Zoom の小ワザ（簡単なミュート解除およびダイレクトチャットの方法、ミラーリングの外し方など）の紹介を行なった。
- 自己紹介アイスブレイク「4つの窓」
 - A4 コピー紙等白紙を4分割し、それぞれに自分を表すキーワードを入れて、うち一つに嘘を記載し参加者はどのキーワードが嘘かを当てる参加型自己紹介を行なった。
- 講義：「SDGs を通した開発教育の授業づくり、ポイントはここ！」
 - 同志社女子大学現代社会学部現代こども学科の藤原孝章特任教授による講義を行った。
 - 講義では、現行の学習指導要領をもとに、どのように「持続可能な社会の創り手」を育てるかということを中心に話が進んだ。SDGs を通して地域の課題から地球規模の課題を学ぶことや SDGs に関連した授業づくりのポイントなどの話

もあった。最後に「SDGsがあってもなくても持続可能な社会の創り手、人材を作る必要性」について言及され「競争するグローバル人材なのか、協働するグローバル人材なのか」という問いかけがなされた。



・ 質疑応答

- SDGs や多文化共生を取り入れる際には地域の課題を知るということも重要なのではないかという質問が上がった。講師からは他国の生徒とのオンライン交流により世界の様々な状況を知りながら、地域の課題に対する興味関心や学習にも繋げることが出来るなどのアドバイスがあった。

・ ふりかえり

- 参加者による振り返りでは、「SDGs の学習のフレームワークが理解できた。まずは学校の中で自分が進んで実践していきたい」「自分の担当教科以外の教科とつながっていききたい」などの声が聞かれた。

・ 次回以降の準備について

- 次回以降の流れの確認、事務連絡を行なった。

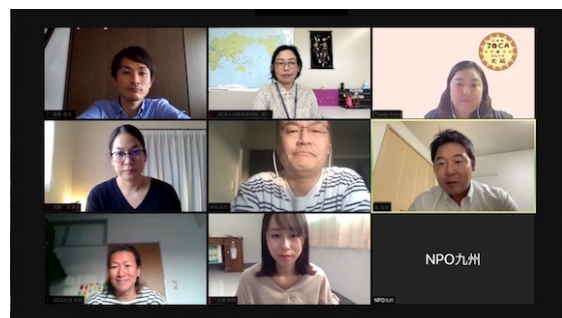
・ 閉会

*その他：全受講者へ受講資料として「2020 年度 JICA 地球ひろば主催 国際理解教育／開発教育指導者研修 授業実践事例集上下」送付

【第1回目-②】

・ 開会、講師紹介

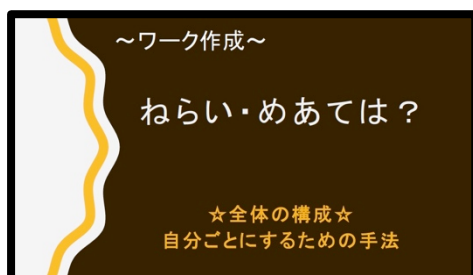
- 講師である公益社団法人 青年海外協力協会(JOCA)の津田かおり氏より自己紹介を行なった。



- 本日の目的説明
 - 本研修の目的及び初級編の「ねらい」（上述）についてと本日の内容説明を行った。
- グラウンドルール
 - 1回目①と同じ。
- アイスブレイク「仲間探しゲーム」
 - 参加者が2つのグループ（ブレイクアウトルーム）に分かれ、決められた時間で全員の共通点を探し、その共通点の数が多い方を勝利グループとする自己紹介ゲームを行なった。
- 参加型学習の体験と解説～SDGsをテーマとして～
 - 講師の津田氏による「なぜ参加型学習なのか」というレクチャーから始まり、実際の参加型学習の体験を行った。
 - 世界地図を見ずに地図を作成する「こころの地図」を描いたり、「生徒になってもらいたい未来像」についてアイデア出しするために Google の Jamboard 機能を用いた KJ 法を実施したり、優先順位を決める「ランキング」を通して参加者同士の意見交換を活性化させる手法を体験した。



また、「部屋にある世界とつながりがあるもの紹介」のアクティビティや、簡単に意思表示できる「あって良い違い・あってよくない違い」などを通して新たな気づきを得られる手法などが紹介された。写真を使った様々な手法も紹介され、それぞれの手法の体験と解説やアレンジ例により理解を深めた。

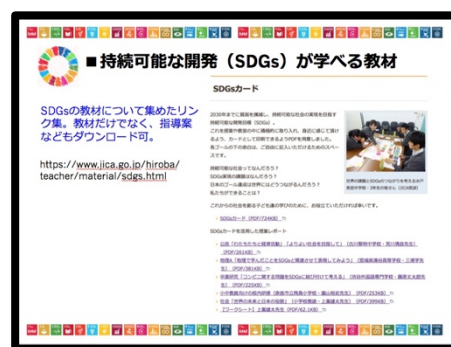


様々な参加型学習の手法を通し、参加者は自分の授業であればどのように使えるかを感じながら受講した。

- ふりかえり
 - 参加者間で今日の感想を共有した。「様々な参加型手法が知れてよかった」「授業に取り入れたい」「次回の研修も楽しみたい」などの感想が聞かれた。

- 課題の提示
 - 今日学んだような参加型学習の手法を用いて2週間後の研修までに学習指導案をつくり、3回目の研修で模擬授業を行うことを確認した。

- JICA の開発教育教材の案内
 - JICA 地球ひろばのホームページに掲載されている教材のうち、学校現場で使いやすいと思われる教材やSDGsに関する教材について案内を行なった。



- 閉会
 - 事務連絡の後閉会した。

【第1回目-③】

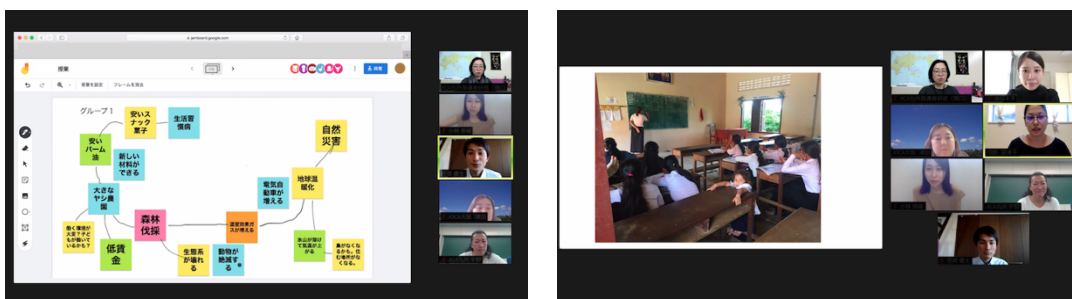
- 開会
- 本日の目的説明
 - 初級編の「ねらい」（上述）についてと本日の内容説明を行なった。
- グラウンドルール
 - 1回目①と同じ。
- アイスブレイク「オンリーワンゲーム」
 - 今回の研修参加者の中で、1名しかいない（オンリーワン）と思われる事柄を当てるゲームを行なった。
- 参加型学習の手法を用いた授業案の発表および講師・参加教員によるコメント・

アドバイス

- 参加者は前研修から本研修までの間に参加型学習の手法を取り入れた学習指導案を作成。参加者を児童生徒と見立て、1人30分の模擬授業を行った。

授業案

- ・つながっている世界～パームヤシを通して～（中学・社会）
- ・SDGsとチョコレート工場（高校・地理公民）
- ・自分たちにできることはなんだろう（小学校）
- ・すごろくを用いた動詞の活用（その他）
- ・カンボジアの学校、日本の学校（その他）



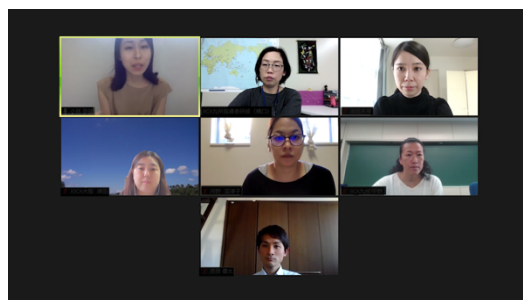
- 発表後、講師から学習指導案および模擬授業についてアドバイスがなされた。
- 参加した教員からも模擬授業に対しての意見が上がるなど、教員同士の学びの場が持たれた。

・質疑応答

- 生徒に対し“誘導しない”ワークショップの実施方法について、講師交え参加者間でディスカッションした。

・ふりかえり

- 各参加者が、本研修での新たな気づきや今後実施してみたいことについて発表した。
- 講師より、開発教育や探求の授業は答えのない学習であり、自分で考え意見を出すことが重要であることと、児童生徒ひとりひとりが発言できることが大切であることが言及され、そのためには教員のファシリテーションが重要であるとまとめられた。



・閉会

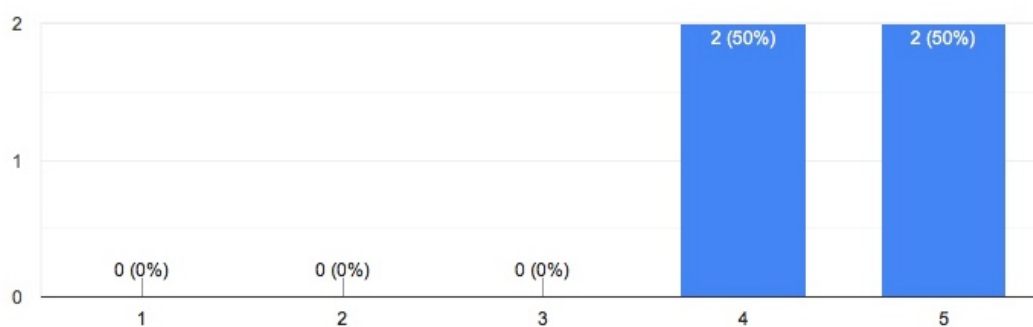
➤ 事務連絡の後閉会した。

■初級編 第1回目 アンケート結果

【第1回目-①：4人中4人回答】

◆本日の研修の満足度をお教えてください。

(「1：あまり満足ではない」～「5：大変満足である」までの5段階)

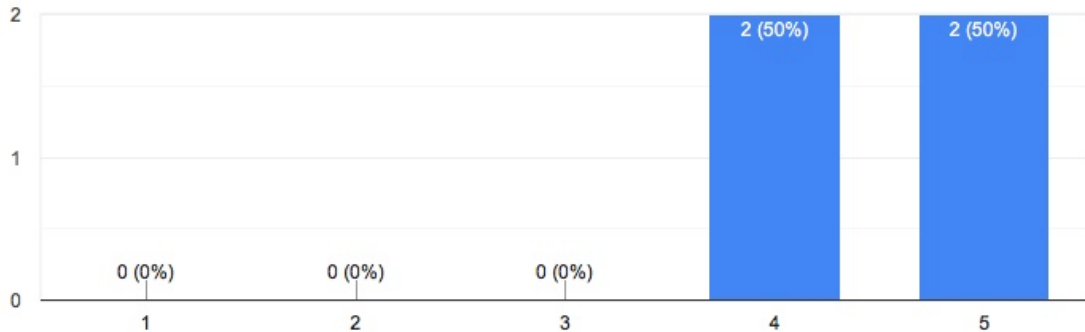


◆上記についての理由をお教えてください。

- ・SDGs を授業に取り入れるうえで気をつけておくべきことを知ることができたため。
- ・学習指導要領にある前文の解説をいただき、学校教育の中の開発教育についてよく理解できた
- ・SDGs の教育について、原点に立ち返り、学ぶことができた。どうしてもSDGs の理念や17ゴールのみになってしまいがちだったので、とても良い学び直しになりました。藤原先生のご講義も大変わかりやすく、もう一度しっかり振り返りたいと思います。
- ・藤原先生の講義内容が良かったと感じました。SDGs の教育現場での生かし方等参考になりました。これから講演の際に伝えてゆきたいと思います。

◆研修内容の理解度をお教えてください。

(「1：あまり理解できなかった」～「5：よく理解できた」までの5段階)



◆1・2を選んだ方は、どの部分の理解が難しかったですか？

該当なし

◆本日の内容のどのような点が、授業を考えるにあたって特に役立ちそうですか？

・17ゴールありきではなく、この学習が結果として、どのSDGsであるか、という点です。

・自分ごとと世界のこと、地球市民を育てるという視点、ファシリテーションや振り返りの重要性について

・到達目標を意識した授業計画に役立ちそう。

・協力隊OV等と連携し身近な例を参考に取り上げつつ生徒にSDGsのテーマを与えるということ。あらゆる目標があるので、すべての教科に取り込むことが可能だという事。

◆その他、感想などがございましたらお願いします。

・今日はありがとうございました。JICAの皆様大変お世話になりました。次回もよろしく願いいたします。

・開発教育のことが改めて理解できました。

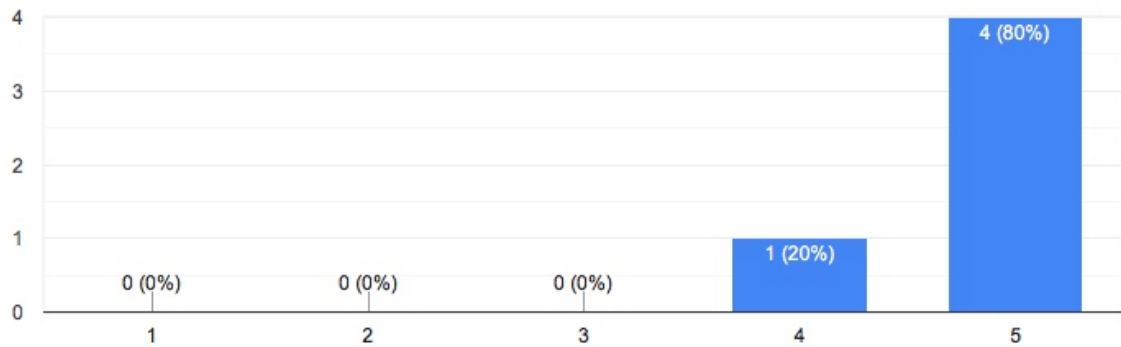
・次回以降の実践的な内容にも興味があるので期待しています。

・藤原先生を含め、先生方とつながれたことが嬉しかったです。参加して良かったです。

【第1回目-②】5人中5人回答

◆本日の研修の満足度をお教えてください。

(「1：あまり満足ではない」～「5：大変満足である」までの5段階)

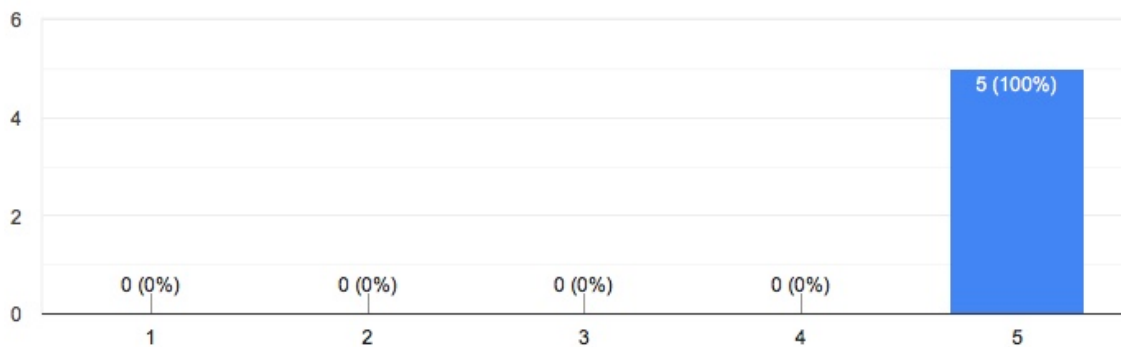


◆上記についての理由をお教えてください。

- ・少人数で濃く学び合え、大変勉強になった
- ・実際に体験することで多くの気づきがあったから。
- ・参加型の手法が基礎から学べた
- ・参加型学習をより発展させる良い勉強になりました
- ・実践を混じえながら参加型授業の例を教えてくださいましたため

◆研修内容の理解度をお教えてください。

(「1：あまり理解できなかった」～「5：よく理解できた」までの5段階)



◆1・2を選んだ方は、どの部分の理解が難しかったでしょうか？

該当なし

◆本日の内容のどのような点が、授業を考えるにあたって特に役立ちそうですか？

・価値観や文化、習慣の違いなどについては本日紹介いただいた活動を取り入れることで体験的に理解することができるかと学びました。小6 社会科日本とつながりの深い国々の学習を構想する上で役立ちそうです。

・参加型授業のアイデアや手法

・手法の使い方がわかった

・Jamboardを使ったワークショップ

・私が教えている科目が言語ということもあり生徒が受け身な授業が多かったのですが、その中でも工夫して参加型の授業にすることができるということがわかりました。私の担当が中学生と高校生なので、ゲームなどを取り入れた授業を試してみようと思います。

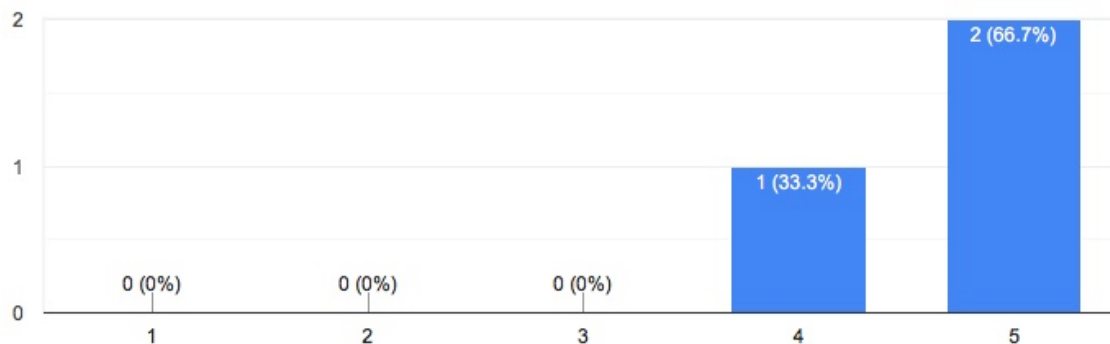
◆その他、感想などがございましたらお願いします。

・グループでのディスカッションで多くの気づきがあったので、とても良かったです。

【第1回目-③：3人中3人回答】

◆本日の研修の満足度をお教えてください。

(「1：あまり満足ではない」～「5：大変満足である」までの5段階)



◆上記についての理由をお教えてください。

・自分が今後どう授業展開をしていこうかと悩んでいたところに、案をくださったり、他の方の授業案を拝見させて頂き、別の角度からのアプローチもあるということを知ることが出来た為。

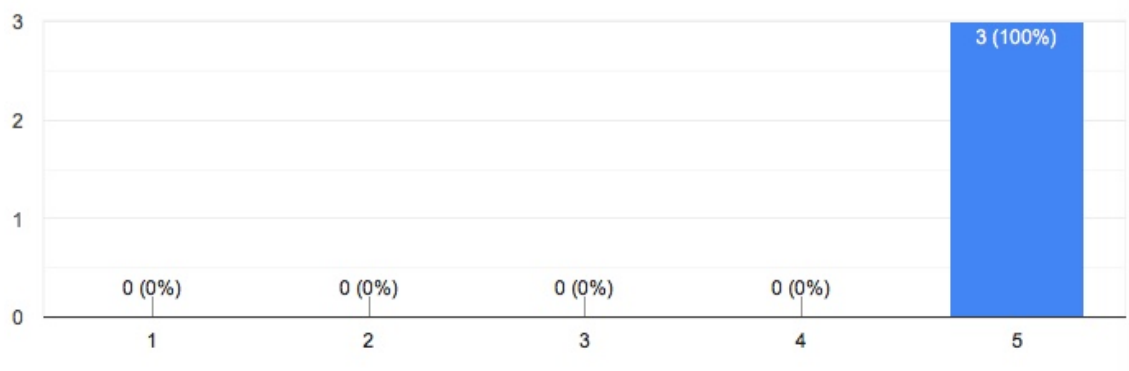
・参加者の実践例が参考になった。

・参加者との意見交換が有益だったから。

◆本日の内容のどのような点が、授業を考えるにあたって特に役立ちそうですか？

- ・津田さんからのアドバイスや、アイスブレイク等
- ・講師のコメント
- ・タブレットやアプリなどの利活用法

◆本研修全体の満足度をお教えてください。



◆上記についての理由をお教えてください。

- ・様々な角度からのご意見を頂けた為。
- ・丁寧にフォローしてもらった
- ・様々なアイデアを知ることができたから

◆その他、感想などがございましたらお願いします。

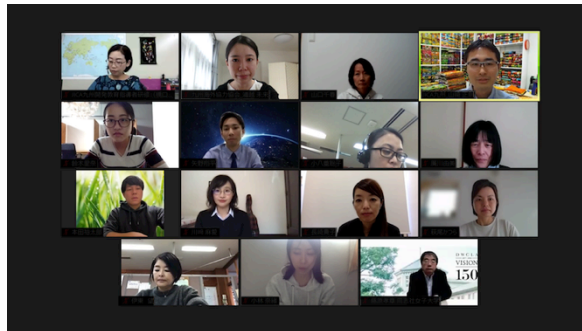
・生徒の人生がかかっていると思い、頭が固くなりすぎて思ったように教えることが出来ず悩んでいましたが、様々な角度からのご意見や、アイスブレイク等での活動を通して、今後どのように教えていけばいいのかのアドバイスを頂きとても感謝しております。頂いたアドバイスを元に **SDGs** や参加型学習を取り入れた授業をしていこうと思います。ありがとうございました。

- ・ありがとうございました。
- ・意見交換の時間がもう少し多くてもよかったです。

■プログラムの内容 -第2回目-

【第2回目-①】

- ・開会、主催者挨拶：JICA九州 市民参加協力課 山崎正則 調査役
 - 進行の自己紹介ののち、JICA九州市民参加協力の山崎調査役が開会の挨拶を行った。



- ・研修趣旨及び目的説明
 - 1回目①と同じ。
- ・グラウンドルール説明
 - 1回目①と同じ。
- ・Zoomの使い方
 - 1回目①と同じ。
- ・自己紹介アイスブレイク「自己紹介ビンゴ！」
 - あらかじめ送付したビンゴシート（8つの海外に関するキーワードとフリーワード枠が記載されている）をもとに、縦横ななめ一列になるよう自己紹介を行った。
- ・講義：「SDGsを通じた開発教育の授業づくり、ポイントはここ！」
 - 同志社女子大学現代社会学部現代こども学科の藤原孝章特任教授による講義を行った。
 - 講義では、現行の学習指導要領をもとに、どのように「持続可能な社会の創り手」を育てるかということを中心に話が進んだ。SDGsを通して地域の課題から

地球規模の課題を学ぶことや SDGs に関連した授業づくりのポイントなどの話もあった。終盤で「SDGs について学ぶ」「SDGs のために学ぶ」「SDGs を通して学ぶ」という視点を提示し、最後にグローバルな社会課題とグローバル経済、連帯と競争に二分化された社会構想の中で「連帯と共生を求める個人」の必要性が言及された。



・質疑応答

- 参加者から講師へ「開発教育や SDGs についての学習の関連性」や「学校で開発教育や SDGs の学習を進めるにあたっての共通理解について」などの質問があがった。学習の関連性としては、「人間の可能性を広げていく教育」という考え方が示され、学校内での取り組みとしては各校種によるポイントなどの解説があった。

・次回以降の準備について

- 1 回目①と同じ。

*その他：全受講者へ受講資料として「2020 年度 JICA 地球ひろば主催 国際理解教育／開発教育指導者研修 授業実践事例集上下」送付

【第 2 回目-②】

・開会、講師紹介

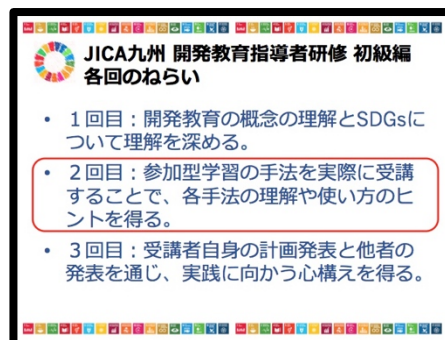
- 1 回目②と同じ。

・本日の目的説明

- 1 回目②と同じ。

・グラウンドルール

- 1 回目①と同じ。



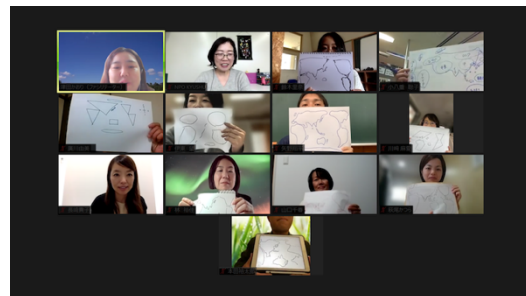
・アイスブレイク「仲間探しゲーム」

- 1回目②と同じ。

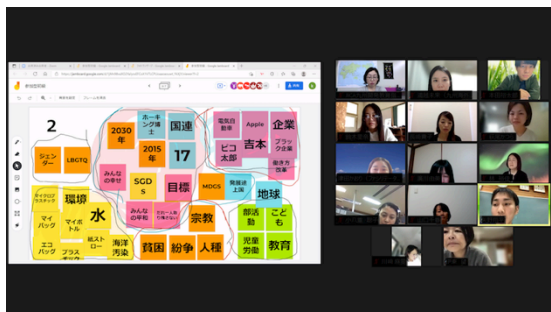
・参加型学習の体験と解説～SDGsをテーマとして～

- 講師の津田氏による「参加型学習は必要か？」という問いかけから始まり、参加型学習に関するレクチャーののち、実際の参加型学習の体験を行った。

- 世界地図を見ずに地図を作成する「こころの地図」を描いたり、「SDGs」についてアイデア出しするためにGoogleのJamboard機能を用いたKJ法を実施したり、優先順位を決める「ランキング」を通して参加者同士の意見交換を活性化させる手法を体験した。



オンライン研修ならではの手法として「部屋にある世界とつながりがあるもの」を探して発表するアクティビティを紹介した。また、写真を用いた参加型手法の体験、簡単に意思表示できる「あって良い違い・あってよくない違い」など



を通して新たな気づきを得られる手法などを体験した。体験や解説、アレンジ例によりそれぞれの手法についてさらに理解を深めた。参加者は自分の授業での活用を想定し受講した。

- 体験の最後に講師からの確認事項として、「活動主義になっていないか」「参加者が自由に発言できる場であるか」「共有や振り返りをしっかりとれているか」など参加型学習において重要な点が言及された。

・質疑応答

- 参加者から「評価について」や「振り返りについて」の質問が上がった。評価については自分自身で考えているかや自分ごとになっているかが重要であること、また振り返りについては時間をじっくり取ることや匿名性を持たせるような振り返りの方法もあるのではないかなどのアドバイスがあった。

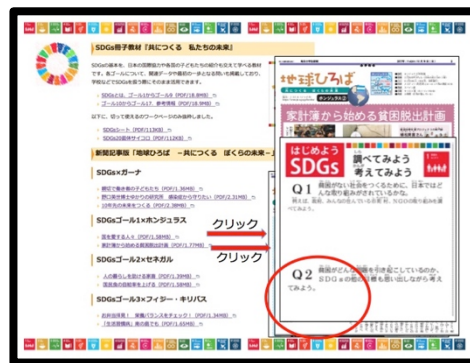
- ・ふりかえり
 - 各参加者が、「今日、一番良かったこと」について発表した。多くの参加者から実際に参加型学習を受講者として体験できたことが貴重な時間であったとの声が上がった。

- ・課題の提示
 - 1回目②と同じ。

- ・JICAの開発教育教材の案内
 - 1回目②と同じ。

- ・次回以降の準備について
 - 1回目②と同じ。

- ・閉会
 - 事務連絡の後閉会した。



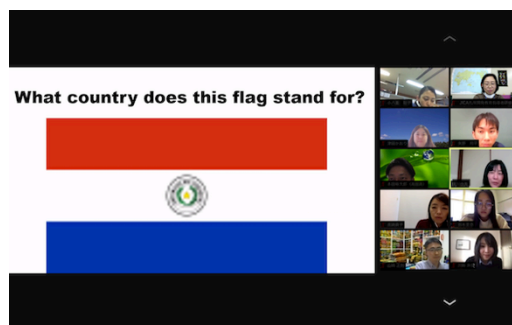
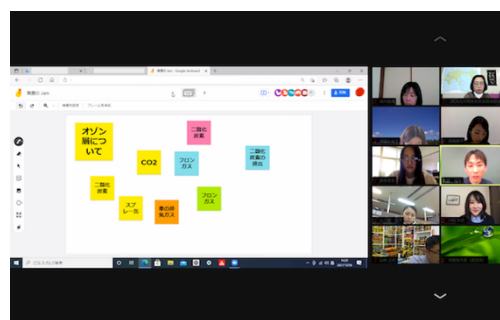
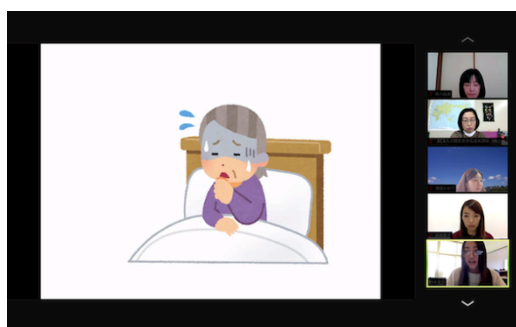
【第2回目-③】

- ・開会
- ・本日の目的説明
 - 1回目③と同じ。
- ・グラウンドルール
 - 1回目①と同じ。
- ・アイスブレイク「オンリーワンゲーム」
 - 1回目③と同じ。
- ・参加型学習の手法を用いた授業案の発表および講師・参加教員によるコメント・アドバイス

- 参加者は前研修から本研修までの間に参加型学習の手法を取り入れた学習指導案を作成。参加者を児童生徒と見立て、1人15分の模擬授業を行った。
- 発表後、講師から学習指導案および模擬授業についてアドバイスがなされた。

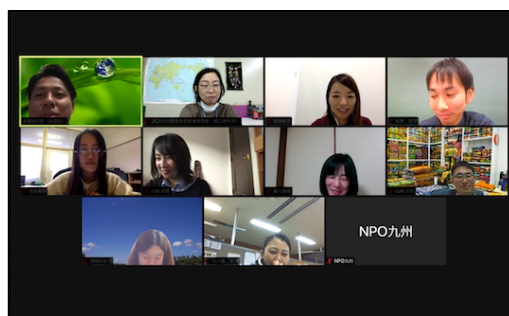
授業案

- ・大きくなった自分のことをふりかえろう（小学校）
- ・やさしい日本語（小学校）
- ・人間の活動と自然環境（中学校・理科）
- ・アジアの諸民族の音楽に親しもう（中学校・音楽）
- ・Beyond Borders（中学校・英語）
- ・幕府の安定 元禄時代（高校・日本史）
- ・Changing Things, Changing Lives（高校・英語）
- ・軌跡と領域～バーチャルウォーターを例に～（高校・数学）
- ・新しい地球観（高校・国語）
- ・The Galapagos Islands（高校・英語）



- ・ふりかえり
 - 各参加者が、本研修での新たな気づきや今後実施してみたいことについて発表した。

- 講師より、SDGs の学習は児童生徒だけが行うものではなく先生自身も当事者であるという意識が必要なこと、また開発教育は人の心に寄り添うものでゴールがあるものではないということ、そして本研修を通し学びあいの場が持たれたことに対する感謝が述べられ終了した。



・ 閉会

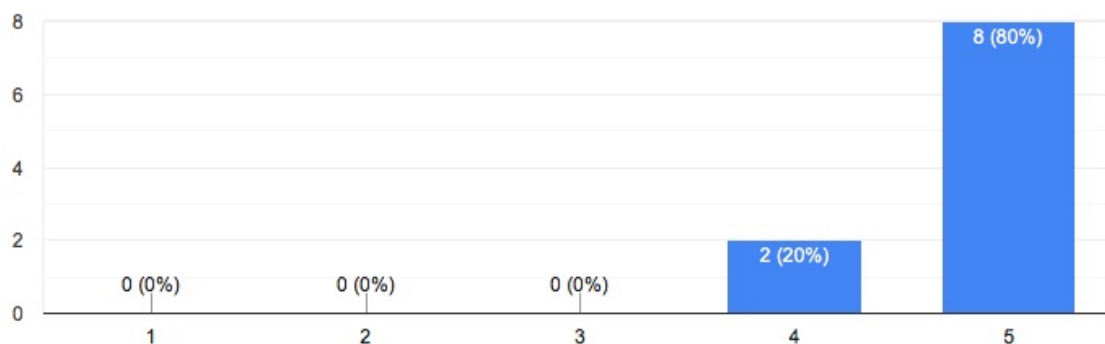
- 事務連絡の後閉会した。

■初級編 第2回目 アンケート結果

【第2回目-①： 10人中10人回答】

- ◆本日の研修の満足度をお教えてください。

(「1：あまり満足ではない」～「5：大変満足である」までの5段階)



- ◆上記についての理由をお教えてください。

- ・参加体験型で、ZOOMでのグループ活動が心に残りました。
- ・少人数での研修で学びやすかったから。
- ・①SDGsの概念や捉え方を解説していただき理解が深まった
②他の先生方と意見交換できた
- ・講義を中心に理解が深まった。また実践に即した内容であったため日々の授業でも取り入れることができるものであった。即効性がありありがたかったです。

・私立学校という特性上、研修を受ける機会は限られており、また、自分の教科での研修ではないので、いつもとは違った学びがありました。

・理由が4つあります。

① とにかく一度、失敗してもよいからやってみようという気持ちになれた点。

② 歴史の授業の中で開発教育を取り入れる際、「未来から現在を考える」という視点で考えることができる気づかされた点。

③ 「持続可能な社会」と「持続可能な開発」を正しく理解できた点。

④ 授業で使える教材や参考文献を知ることができた点。

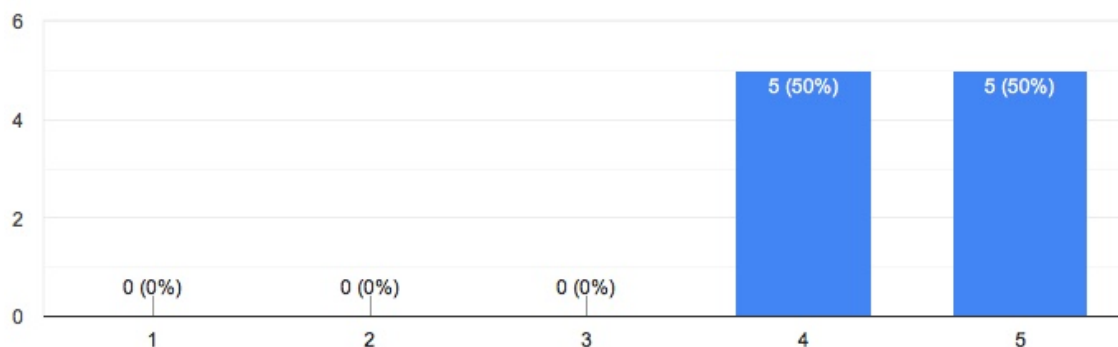
・SDGsに関する子ども向けの本や手がかりをたくさん得ることができたから

・学校現場におけるSDGs等の課題等を再確認できたため。

・講義を受ける前はSDGsを学ぶこと自体が大切だと思っていたが、それを学んでどう活かすのかということやゴールの設定の仕方について新しい視点を得られたから。

◆研修内容の理解度をお教えてください。

(「1：あまり理解できなかった」～「5：よく理解できた」までの5段階)



◆1・2を選んだ方は、どの部分の理解が難しかったですか？

該当なし

◆本日の内容のどのような点が、授業を考えるにあたって特に役立ちそうですか？

・自己紹介ビンゴ、藤原先生から紹介された本

・持続可能な社会を作っていくための教育というゴールが明確に見えたこと。

・カリキュラムやテーマの内容や設定の仕方

・ロゴありきではなく、課題から活動を生み出す

・教科だけでなく学校全体として取り組み組織体制

・実践例について

・SDGsを教育活動の中にどのように取り入れているかの具体的事例の紹介

・持続可能な社会の作り手となる生徒を育てていくために持続可能な開発のための教育を行っていただけると思います。

・高校で歴史を教えています、各時代における政治改革を学ぶ際に「これは今のSDGsであれば、何番の解決を目標にした政策になるか」などを問いかけたことは何回かありました。しかし、その問いかけだけでは、「点」で終わってしまうことに気づき、今までの歴史は「SDGsに残された課題である」ということを意識すれば現在につながる「線」にまでもっていくことができるのではないかと考えています。

・SDGsの達成に向けて色々と不安なことはありますが、自分で着地点を決めながら「とにかくやってみる」ということが大切だと思いました。

・SDGsの積極的な取り組みにより、カリキュラムマネジメント等授業内容の根本的なあり方の再構築に役立ちそうである。

・活用できる教材を知ることができた点。SDGsの内容を扱うときのゴールの設定の仕方について学べた点。

◆その他、感想などがございましたらお願いします。

・貴重な研修をありがとうございました。

・大変貴重な研修の機会になりました。お忙しいところ、連絡や資料送付などご準備いただき、感謝申し上げます。

・研修内容だけでなく、Zoomを使ったコミュニケーションの方法も勉強にもなりました。ありがとうございました。

・SDGsの概要を学べるだけでなく、他の先生方と意見交換できたことでとっても刺激を受けました。効果的な参加型学習のやり方をたくさん学んで行きたいと思います。

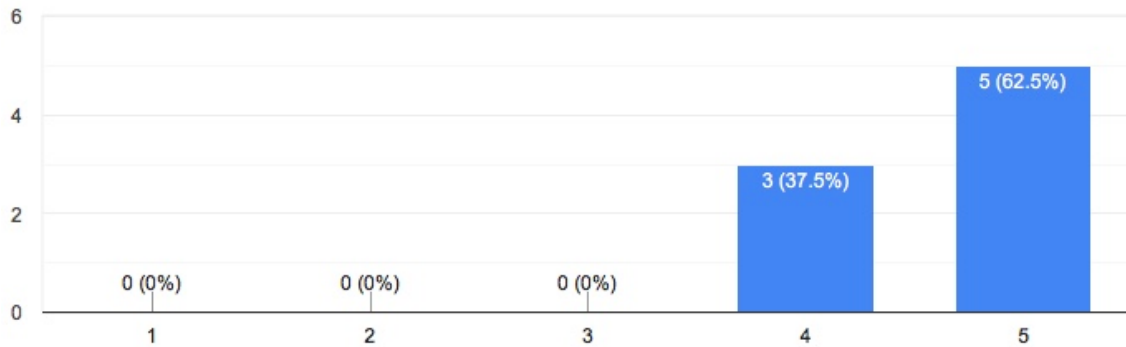
・海外に行ったことのない私自身にとって、世界についてより考えられる良い機会となった。SDGsを当たり前知っている学校現場を、活用できる学校現場を、SDGsに対応できる若者の育成ができる現場を目指して改めて頑張りたいと感じた一日でした。

・様々な校種の教員の方と交流しながら、SDGsについての学びを深めることができ、とても有意義な時間になりました。

【第2回目-②：11人中8人回答】

◆本日の研修の満足度をお教えてください。

(「1：あまり満足ではない」～「5：大変満足である」までの5段階)

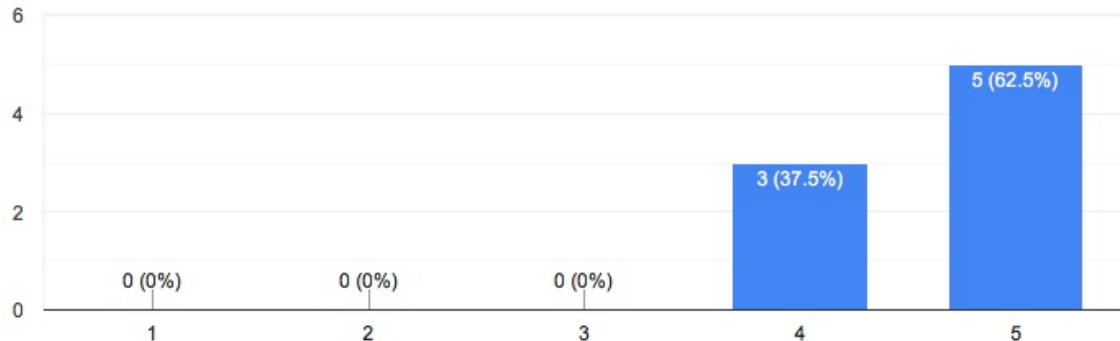


◆上記についての理由をお教えてください。

- ・授業づくりにむけて参加型学習について体験できたから。
- ・オンラインでの参加型授業の手法を学習できたこと、対面型での参加型授業で大切にしたい観点を教えていただいたこと
- ・とてもいい内容で、自分の中にぜひともインプットしたいと思いました。しかし、手元に資料がなく、最初の方は記録を残さねば一と必死でした。(のちほど資料配布の旨連絡がありましたが、同時進行で資料に書き込みをしたかったです。)前もっての資料があると予習などができて、質問が有意義なものになると感じました。
- ・参加型の手法を体験でき具体的に理解できた (Jamboard、KJ法、ランキング、フォトランゲージなど)。
- ・具体的な手法が学べたから。
- ・体験できたこと、他の先生方との意見交換ができたことがよかったです。
- ・jambord等授業で使えそうなものを知ることができた。また、参加型学習についても様々なものがあることが知れてよかった。

◆研修内容の理解度をお教えてください。

(「1：あまり理解できなかった」～「5：よく理解できた」までの5段階)



◆1・2を選んだ方は、どの部分の理解が難しかったですか？

該当なし

◆本日の内容のどのような点が、授業を考えるにあたって特に役立ちそうですか？

・活動にとらわれず、めあてとふりかえりをしっかり考えた上で参加型学習を組み込むこと。

・振り返りと共有で参加者から出てきた意見が参考になった

・協働型学習や探究活動に役立つ点が多くありました。ファシリテーターとしての役割や手法が勉強になりました。活動が目的にならないように考えていくのは大変ですが、そのヒントがもらえた気がします。

・最初の段階で生徒をどう惹きつけるか。

・学ばせたい内容をどのような活動を通して理解につなげるかという点

・目的やねらいを達成するために、活動をどのように組み合わせたらいいかたくさん事例を得られた点。

・Google Jamboardを使ったKJ法での意見交換はやって見たいと思いました。

・主体的な学びを重視してきている現在の学習指導要領において、参加型学習は必須事項になると思うので、グループ活動の在り方や、共同作業を考えるうえで役立ちそうである。

◆その他、感想などがございましたらお願いします。

・ありがとうございました。

・途中休憩の時間が欲しかったです。適宜一ということだったのかもしれませんが、そ

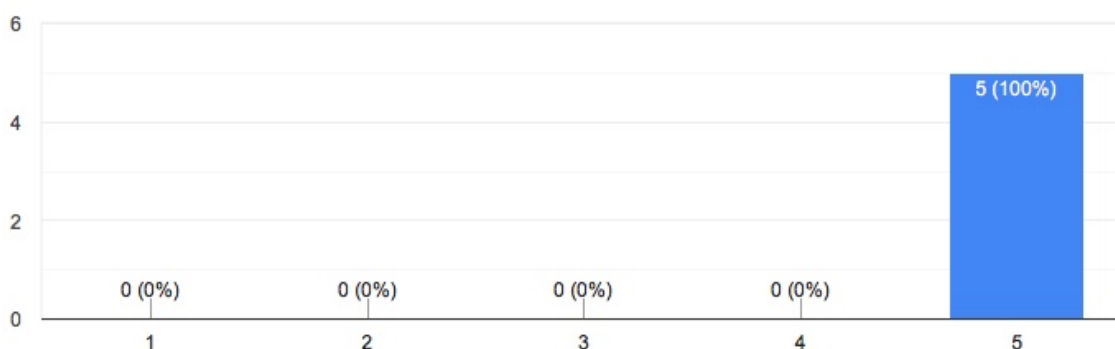
れこそ参加型で席を外すことが躊躇われました。

- ・理論編、実践編と段階を踏んでいただき、理解しやすかったです。
- ・手法を体感的に学べたことがとても有意義でした。ありがとうございました。
- ・途中からの参加でしたが、勉強になりました。
- ・第2回目についても様々な情報や手法が知ることができ大変良かったです。

【第2回目-③：7人中5人回答】

◆本日の研修の満足度をお教えてください。

(「1：あまり満足ではない」～「5：大変満足である」までの5段階)



◆上記についての理由をお教えてください。

・SDGsの観点や国際開発の視点から、新しい授業を実践し、先生方からの貴重なアドバイスを頂けたからです。不安なことが多かったのですが、達成感を味わうことができました。また、校種を超えて様々な分野の先生がたの授業もみることができ、とても勉強になりました。

- ・模擬授業をするだけでなく、受けることによって学びが深まりました。
- ・自分で考えた授業をアウトプットできただけでなく、校種をこえて、SDGsを取り入れた様々な模擬授業を体験することができたから。(原文ママ)
- ・小・中・高の先生方と交流する機会ができたこと、参加型学習の方法を実際に学ぶことができたため

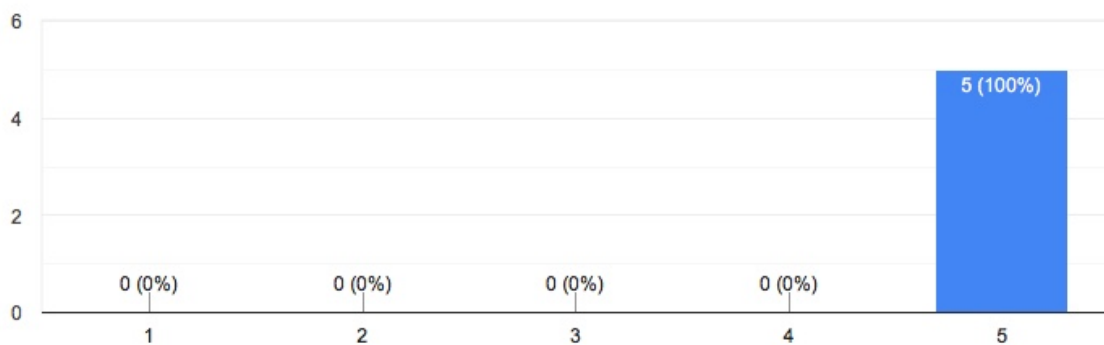
◆本日の内容のどのような点が、授業を考えるにあたって特に役立つそうですか？

・参加型授業の手法を実際に体験して、より理解が深まりました。実践してみたいです。また、他教科の先生方の話を聞くことで、自身の教科に還元できるものが多くありました。

- ・アイスブレイクやグループでのディスカッションの時間を大切にする点です。

- ・各先生の授業内容・技術が役立ちそうです。
- ・模擬授業に対して、細やかなフィードバックをいただき、改善できる機会をいただいた点。
- ・参加型学習を行う際の時間設定や活動内容の的確な指示の出し方、共有の仕方など、参加型学習の手法全体ではなくても、パーツごとに日々の授業に取り入れ可能であると感じました。

◆本研修全体の満足度をお教えてください。



◆上記についての理由をお教えてください。

- ・今後の授業を作るなかで、たくさんのヒントをもらえたからです。
- ・全てですが、特に、県外、異校種、他教科、年代が異なる先生方の模擬授業及びご紹介いただいた資料です。
- ・知識→手法→アウトプットで深い学びを得られたから。
- ・自分の授業を見直すきっかけになった。参加型学習や開発教育など難しく考えていたが、普段の授業に少し取り入れるだけでも、生徒たちが考えるきっかけになると気づくことができたから。

◆その他、感想などがございましたらお願いします。

- ・初めから最後まで大変お世話になり、ありがとうございました！！
- ・充実した研修をありがとうございました。思いがけない方との再会に感動しました。
- ・3回の研修で、他県の先生方とも教育についてお話ができ、とても有意義でした。研修の企画をありがとうございました。
- ・オンラインの研修で少し緊張しましたが、目的意識をしっかりと持っていらっしゃる先生方ばかりですごく刺激を受けました。また、参加型授業の手法を具体的に知ること

ができ、今までの授業で「ワンパターンだな」と感じていた部分の改善点が見えてきました。ありがとうございました。

JICA 九州開発教育指導者研修・中級編

■開催概要

・日時

第1回目	2021年12月12日(日) 13:00～18:00
第2回目	2022年1月16日(日) 13:00～18:00

・場所

Zoomによるオンライン

・参加者内訳および参加者数

第1回目／小学校2名・中学校2名・県教育センター1名・県教育庁1名

第2回目／小学校1名・中学校1名・高等学校2名・特別支援学校1名・
県教育センター1名・市教育センター1名

・ファシリテーター：

・環境：津田 かおり氏（公益社団法人 青年海外協力協会（JOCA））

・多文化共生：橋口 恵利子（特定非営利活動法人 九州海外協力協会）

■ねらい

異なった2つのワークショップを体験し、自身の授業にどのように取り入れアレンジするかについて考え、参加者同士でシェアすることで実践への足がかりとする。

■プログラムの内容 -第1回目-

・開会、主催者挨拶：JICA九州 市民参加協力課 中野由美

- 進行の自己紹介ののち、JICA九州市民参加協力課の中野職員が開会の挨拶を行った。

・研修趣旨及び目的説明

- 本研修の目的及び中級編の「ねらい」（上述）についてと本日の内容説明を行

なった。

- ・グラウンドルール説明

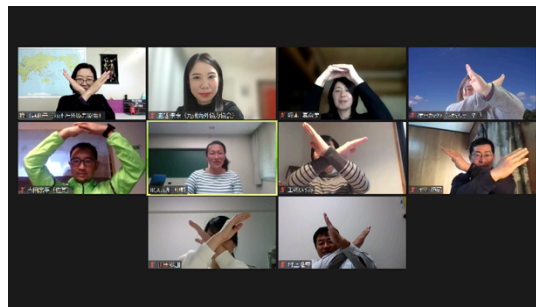
- 参加型学習に必要な参加の場づくりについて説明した。

- ・Zoom の使い方

- Zoom の基本の使い方や Zoom の小ワザ（簡単なミュート解除およびダイレクトチャットの方法、ミラーリングの外し方など）の紹介を行なった。

- ・自己紹介、アイスブレイク「私の〇×クイズ」

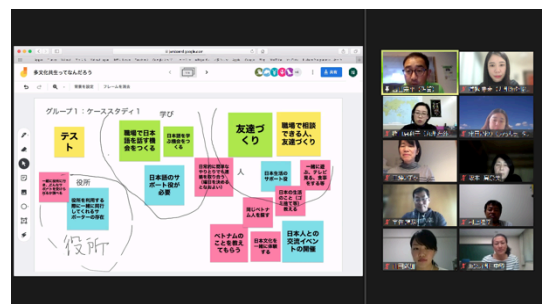
- 白紙に自分についての〇×クイズを記入。名前や所属、今日の意気込み等を述べた後にその用紙を見せながら〇×クイズを出題し、他の参加者は〇または×どちらか自分が正答だと思うほうを腕で表現して回答するという参加型自己紹介を行なった。



- ・ワークショップ体験と解説①：多文化共生ってなんだろう？

- 特定非営利活動法人九州海外協力協会の橋口が多文化共生について考えるワークショップの実施と解説を行なった。

- 当ワークショップは JICA 九州が作成した教材『多文化共生ってなんだろう？』を用いて実施された。ワークショップでは在住外国人、日本人双方の目線で見えたケーススタディをとおり、地域社会の問題について考えた。参加者は自分だったらどう活用するかということを念頭に置きながら、ワークショップの一受講者として参加し



た。ワークショップではオンライン上で使用可能な電子ホワイトボード「Jamboard」上で KJ 法を用いた意見交換を行なうという、オンラインツールを活用した参加型手法が用いられた。

- ワorkshop体験の後、当教材の構成やワークショップ実施時のポイントについて解説があった。

・ワークショップ体験と解説②：モルディブのミードゥ島の水

- 公益社団法人青年海外協力協会の津田氏が、水を取り巻く世界的な現状と小さな島国を舞台にした環境や水について考えるワークショップの実施と解説を行なった。
- 当ワークショップは JOCA が作成した教材『モルディブのミードゥ島の水』を用いて実施された。参加者は自分だったらどう活用するかということを念頭に置きながらワークショップの一受講者として参加した。
- その後当教材の構成やワークショップ実施時のポイントについて解説があった。フォトランゲージの手法や参加者への問いかけの仕方等、他のワークショップにおいても活用できるポイントが説明された。



・グループセッション

- 参加者は受講した2つのワークショップのうちより関心のある一つを選び、自分が今所属している現場で活用するならどのように実施するか、アレンジを検討した。アレンジの検討は Zoom のブレイクアウト機能を用いて2つのグループに分かれて行なった。グループにはそれぞれのワークショップを担当した講師も加わり、参加者へ適宜アドバイスをした。
- 授業案の作成には Jamboard を用いた。あらかじめ Jamboard 上にはフォーマットが用意されており、それに則って授業案を考えるという手法で実施をした。

・全体共有

- 検討したアレンジ案について全体で共有した。

・振り返り

- 本日の学びや感想を参加者一人一人が発表し、研修を振り返った。「今回のワークショップはそのままで使えるしアレンジしても使える。色々と試してみたい」などの感想が聞かれた。

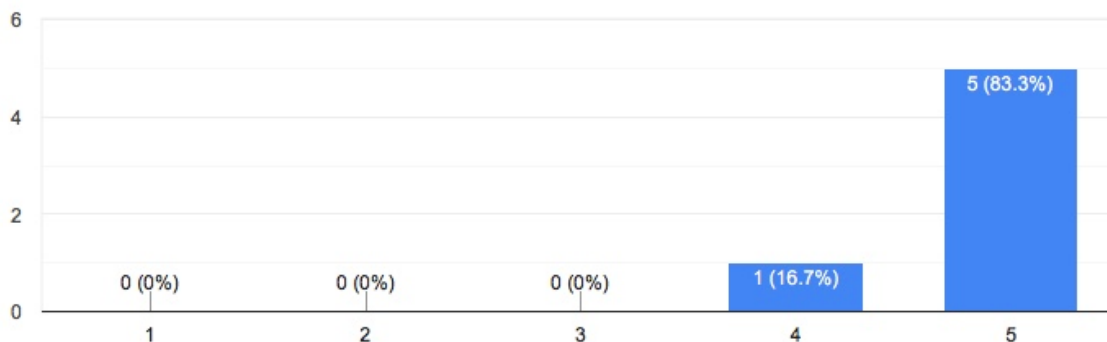
・閉会

- 事務連絡の後閉会した。

■中級編 第1回目 アンケート結果 (6人中6人回答)

◆本日の研修の満足度をお教えてください。

(「1：あまり満足ではない」～「5：大変満足である」までの5段階)



◆上記についての理由をお教えてください。

- ・ワークショップを体験し、その有効性や **SDGs** を目指した授業の具体が分かったから
- ・充実した時間でした
- ・①丁寧にアイスブレイキングをしていただいたので参加者のことを身近に感じながら研修を進めることができました。(横のつながりのきっかけ)
- ②研修を通して、ワークショップの手法の解説もしていただいたのでわかりやすかったです。
- ③多文化共生と環境の二つの視点を学ぶことができました。(普通だと1つ)
- ④ジャムボードが使えるようになりました。
- ⑤ブレイクアウトセッションや全体も含め、皆さんと話し合う機会がたくさんありました。

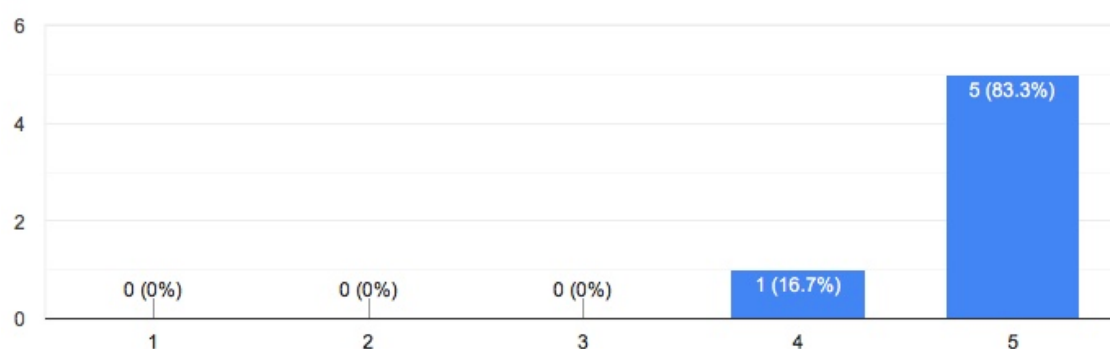
◎自分の今後の実践の基（芽）ができました。

・とても実践的で、実際の授業に活用できる内容でした。開発教育に高い関心を持たれている他の先生方と接することができ、自分自身のモチベーションが上がったことも、今回の研修の収穫です。

・ワークショップを通して意見交換ができた

◆研修内容の理解度をお教えてください。

（「1：あまり理解できなかった」～「5：よく理解できた」までの5段階）



◆1・2を選んだ方は、どの部分の理解が難しかったですか？

・（1・2を選んではいないが）内容が濃かったので、時間にもう少し余裕があるとよかったです。ただ、十分理解できる研修のマネジメントであったと思います。

◆本日の内容のどのような点が、授業を考えるにあたって特に役立ちそうですか？

・色々な先生方の考え方

・ワークショップの進め方がわかりやすかったです。

・上記の満足度の理由の②③④が役に立ちそうです。

・「SDGsとは」「開発教育とは」という概要的な研修ではなく、授業の具体的な事例を紹介いただき、そのワークショップに自分たちが生徒の視点で参加できたことは大変ありがたかった。「授業アレンジの検討」で考えたように、次年度の総合学習の計画を立てる際に参考にしたい。

・発問の内容

◆その他、感想などがございましたらお願いします。

・長かったです、これまで1, 2年のオンライン研修の中で、内容や進め方が一番効果的で充実していました。ただ、ちょっと長かったです。難しいところですね。

- ・先生方がどこに悩んでおられるかを感じることができ、大変参考になりました。
- ・少人数でびっくりしましたが、気負わず参加できて楽しかったです。親しみやすい雰囲気づくりに感謝します。
- ・オンライン研修を開催していただき、ありがたかったです。対面やハイブリッド（対面とオンライン）の研修も開催していただけたら嬉しいです。
- ・このような研修を、今後ご提供いただけると大変ありがたいです。
- ・準備計画等大変だったと思います。内容がとてもわかりやすく大変勉強になりました。

■プログラムの内容 -第2回目-

- ・開会、主催者挨拶：JICA 九州 市民参加協力課 山崎正則調査役
 - 進行の自己紹介ののち、JICA 九州市民参加協力課の山崎が開会の挨拶を行なった。

- ・研修趣旨及び目的説明
 - 1回目と同じ。

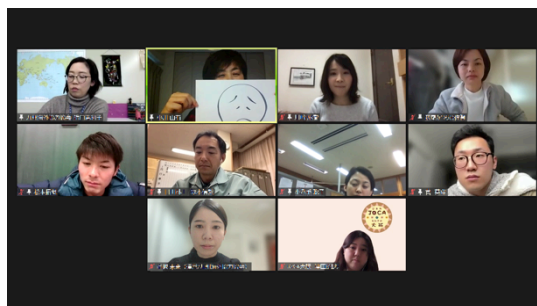
- ・グラウンドルール説明
 - 1回目と同じ。

- ・Zoom の使い方
 - 1回目と同じ。

- ・自己紹介、アイスブレイク「しりとり」
 - 名前や所属等を述べる簡単な自己紹介の後、2 グループに分かれて Jamboard を使用してしりとりを行なった。しりとりを通して緊張をほぐすとともに Jamboard の使用方法に慣れることができた。

- ・ワークショップ体験と解説①：多文化共生ってなんだろう？
 - 特定非営利活動法人九州海外協力協会の橋口が多文化共生について考えるワークショップの実施と解説を行なった。

- ▶ 当ワークショップは JICA 九州が作成した教材『多文化共生ってなんだろう？』を用いて実施された。参加者は自分だったらどう活用するかということを念頭に置きながらワークショップの一受講者として参加した。ワークショップは個人ワークとグループ討議を組み合わせながら進行された。

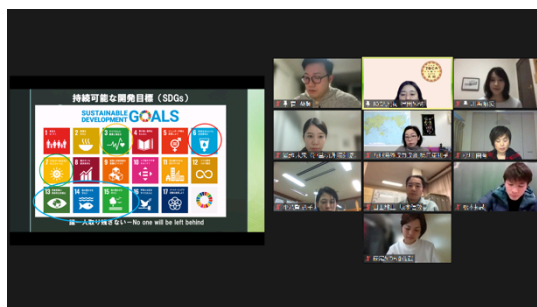


- ▶ ワorkshop体験の後、当教材の構成やワークショップ実施時のポイントについて解説があった。

・ワークショップ体験と解説②：モルディブのミードゥ島の水

- ▶ 公益社団法人青年海外協力協会の津田氏が水を取り巻く世界的な現状と小さな島国を舞台にした環境や水について考えるワークショップの実施と解説を行なった。
- ▶ 当ワークショップは JOCA が作成した教材『モルディブのミードゥ島の水』を用いて実施された。参加者は自分だったらどう活用するかということを念頭に置きながらワークショップの一受講者として参加した。

- ▶ その後当教材の構成やワークショップ実施時のポイントについて解説があった。ワークショップの内容と関連する SDGs のゴールが示され、参加者は学校現場で活用するヒントを得た。

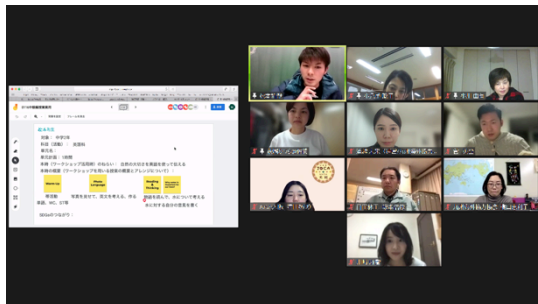


・グループセッション

- ▶ 参加者は受講した2つのワークショップのうちより関心のある一つを選び、自分が今所属している現場で活用するならどのように実施するか、アレンジを検討した。参加者はそれぞれの担当教科やクラスに合わせたアレンジを、各講師や他の参加者との意見交換をしながら考えた。

・全体共有

- 1回目と同じ。校種や担当科目の異なる参加者の活用アイデアを聞くことで、気づきを広げた。



・振り返り

- 研修参加後の現在の気持ちを漢字1文字で表し、その文字と理由を共有した。



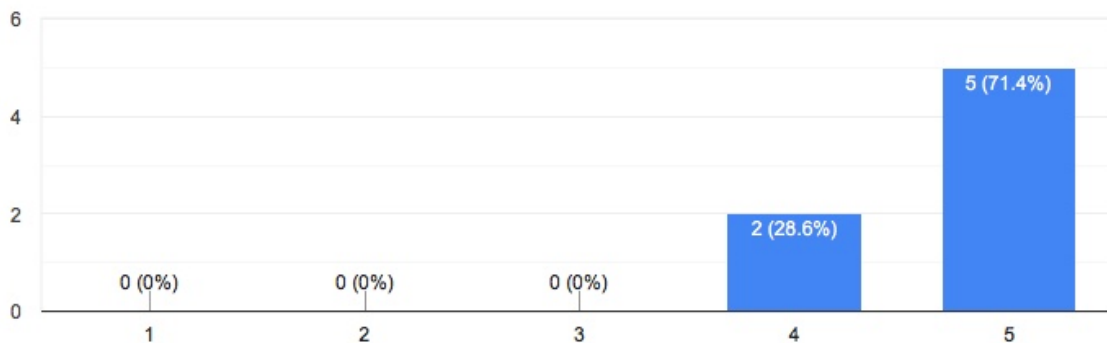
・閉会

- 事務連絡の後閉会した。

■中級編 第2回目 アンケート結果（7人中7人回答）

◆本日の研修の満足度をお教えてください。

（「1：あまり満足ではない」～「5：大変満足である」までの5段階）

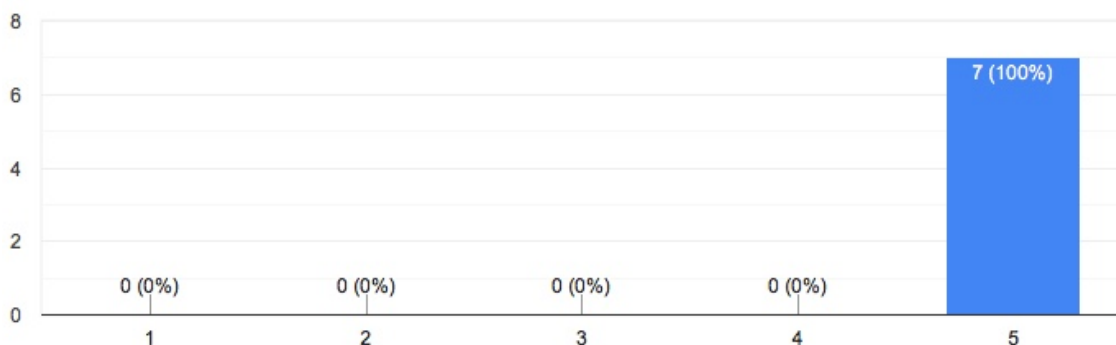


◆上記についての理由をお教えてください。

- ・多文化共生について色々な情報や意見を共有できたから
- ・授業の参考、自分自身の知識等の向上
- ・いろいろな先生のアイデアをすることができたから。
- ・今回は色々な先生方のお話を聞いて、自分の知見を広げることができ、大変勉強になりました。
- ・開発教育のワークショップを実際に体験し、ワークショップの流れなどを体験することができたから。県内外の先生方と一緒に活動することができたから。
- ・多文化共生について考える際に、当事者の気持ちになって問題点を改善する手法を学ぶことができたからです。最後の授業案作成で、十分に書くことが出来なかった反省もあり、4にさせていただきました。

◆研修内容の理解度をお教えてください。

(「1：あまり理解できなかった」～「5：よく理解できた」までの5段階)



◆1・2を選んだ方は、どの部分の理解が難しかったですか？

該当なし。

◆本日の内容のどのような点が、授業を考えるにあたって特に役立ちそうですか？

- ・ワークショップの作り方
- ・ワークシートや授業づくりにおける展開
- ・ケーススタディ、フォトランゲージの活動、こころの宿題という視点
- ・ケーススタディは色々な授業で使えるので、応用していきたい
- ・共生社会のワークショップは、さまざまな立場に立って考える力を培うきっかけになると感じた。そのため、歴史の授業を通して、様々な身分、地域の人々から1つの出来事を捉えるきっかけになり、歴史を深く理解する上でも活用できると感じた。環境に関するワ

ークショップは、環境と歴史は切り離せないものなので、政治・経済・文化などあらゆる単元で導入できると感じた。

・アイズブレイクの方法や、写真を用いた物語作りなどで、子どもたちの関心を惹きつけたいです。

◆その他、感想などがございましたらお願いします。

・今回の機会に感謝しております スキルアップができ、自分自身の課題が発見できました ありがとうございます

・WSの内容が、自分の専門分野で応用できるかどうか少し不安でしたが、自分自身が枠にとらわれず柔軟にWSを捉えることで、どのような授業内容であっても対応できると感じた。開発教育と考えると難しく捉えがちになっていたが、自分のアイデア次第でどの内容にも応用できるのではないかと考えられるようになった。

・今回もたくさんの角度から先生方の考え方を聞いて学ぶことができました。足りないことばかりでしたが、たくさんのサポートをして頂きありがとうございました。これから実施する学級経営や授業づくりのなかで、参加型学習やSDGsにつなげた学習を実施したいと思います。その時はまたご報告させていただきます。

JICA 九州開発教育指導者研修・学びあい編

■開催概要

・日時

第1回目：福岡県・大分県の先生対象	2022年1月30日（日） 13:30～16:30
第2回目：佐賀・長崎・熊本県の先生対象	2022年2月6日（日） 13:30～17:00
第3回目：宮崎県・鹿児島県の先生対象	2022年2月13日（日） 13:30～16:30

・場所

Zoom によるオンライン

・参加者内訳および参加者数

第1回目／小学校3名・中学校4名・高等学校1名・県教育センター1名

第2回目／小学校1名・中学校2名・高等学校1名・県教育庁1名・

県教育委員会1名

第3回目／小学校2名・中学校6名・高等学校6名

・授業実践発表 講師：

第1回目	福岡県	田渕 陽平	北九州市立筒井小学校	
	大分県	林 正太郎	佐伯市立直川中学校	英語
第2回目	佐賀県	吉田 宗平	佐賀県教育庁保健体育課	学校体育担当
	長崎県	市丸 恵理	長崎市立西浦上中学校	音楽・特別支援
	熊本県	清田 憲一郎	熊本市立帯山小学校	
第3回目	宮崎県	太田 京子	延岡市立三川内小中学校	英語
	鹿児島県	祝迫 創	志學館中・高等部	英語

■ねらい

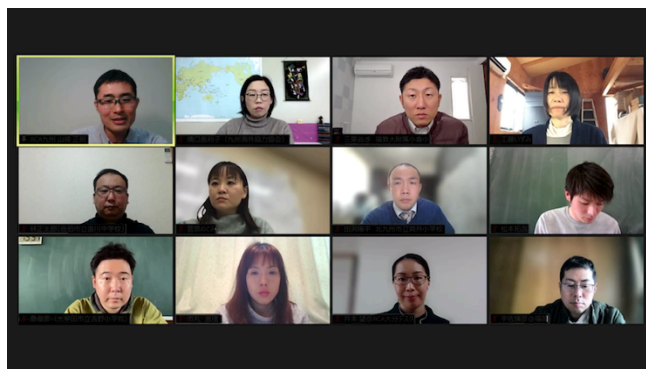
- ① 開発教育、国際理解教育、SDGsに関する授業を実践されている先生による授業実践発表を通して、自身の授業の参考とする。
- ② 参加者同士の意見交換および開発教育に関する教員間のネットワーク作りを

考えるグループワークを通して、継続的な学びあいや情報共有の場作りについて意識する。

■プログラムの内容 -第1回目（福岡県・大分県の教員対象）-

<第1部>

- ・開会、主催者挨拶：JICA九州 市民参加協力課 山崎 正則 調査役
 - 進行の自己紹介ののち、JICA九州市民参加協力の平課長が開会の挨拶を行なった。



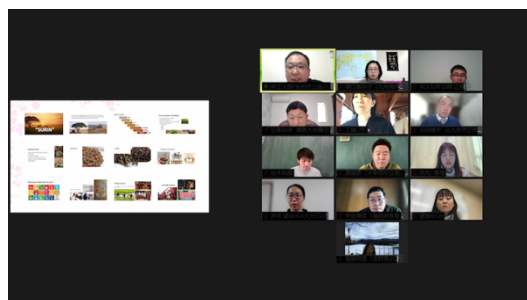
- ・研修趣旨及び目的説明
 - 本研修の目的及び本日の内容説明を行なった。
- ・グラウンドルール説明
 - 参加型学習に必要な参加の場づくりについて説明した。
- ・Zoomの使い方
 - Zoomの基本の使い方やZoomの小ワザ（簡単なミュート解除およびダイレクトチャットの方法、ミラーリングの外し方など）の紹介を行なった。
- ・講師紹介
 - 2名の講師について進行より紹介を行ない、その後講師自身が自己紹介を行なった（講師は上述「授業実践発表 講師」参照）。
- ・授業実践発表①：田淵 陽平 氏（北九州市立筒井小学校）
 - 2020年度 JICA 地球ひろば主催国際理解教育／開発教育指導者研修参加後に取り組んだ授業実践の発表を行なった。

- 一定の知識が興味・関心を引き出し、ジブンゴト化につながるという前提から話が始まった。
- 小学校6年生を対象にした10時の授業概要を説明し、その中で行なった「世界がもし100人の村だったら」を元に参加型手法を取り入れた授業を紹介した。また、JICAの教材を利用した授業事例も紹介した。
- 生徒の授業後の変化では「最初はSDGsの（目ひょうの）1つぐらいぬけても何もならないと思っていたけど、この学習をとおして、SDGsの1つぬけたら、すべてが（世界が）成り立っていかないということに気づきました」など考えが深まったことを紹介した。
- 自分のクラスだけでなく他のクラスの担任にも教材を共有し、活用した事例も紹介した。
- 最後に、参加した研修で得たものは、自己研鑽だけでなく、全国の志が同じ仲間や子どもたちの笑顔であったことなどを話し終了した。



・授業実践発表②：林 正太郎 氏（佐伯市立直川中学校 担当教科：英語）

- 2019年度教師海外研修（ラオス）に参加後に実施した6時間の授業展開について紹介した。
- フードロスを経験した学校の残食などから世界の食料問題について考えられるよう授業を展開し「自分たちには無関心ではいけない」現状を取り上げるなどした。そこからSDGsへ展開する授業を紹介した。
- その他、日常的にSDGsが意識できるような教室レイアウトや掲示方法などを紹介した。
- もともと海外旅行が好きで教師海外研修以前より自身の旅を教材化していた。その様々な教材をブログという形でアップしており、それらの教材を紹介した。あわせて、小さなことでも継続することの重要性に言及した。
- 教師海外研修に参加する際に、より良い収穫を得るための視点を紹介し発表を



終了した。

<第2部>

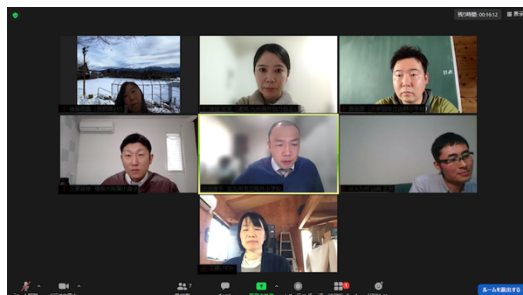
- ・自己紹介アイスブレイク「身近な世界とのつながり」
 - 第2部に入る休憩時に、家や職場にある「海外とつながるもの」を探し、それをもとに20秒自己紹介を行なった。

・グループセッション① グループディスカッション

- 最初に授業実践発表を行なった講師ごとにブレイクアウトルームで別れ、それぞれのグループで話し合いを行なった。

・ディスカッション項目

1. 第1部での発表に対する質疑応答
2. 日々の授業(開発教育や国際理解教育、SDGsに関する学習)の中で困っていること

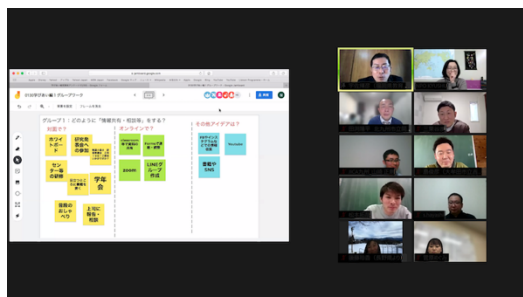


- 最後にメインルームで全員での質疑応答を行なった。

・グループセッション② グループワーク

- ネットワーク(情報共有・悩み相談の場作り)の必要性とその形について意識するために、最初に「教員間のネットワークは必要か?」という題材を元に、個人での意見だし→ブレイクアウトルームに別れてのグループディスカッションを行なった。

- その後、各グループで発表した。どのグループも「必要」ということであつたため、ではどのように「情報共有・相談等」をするのが良いと思うか、またその方法についてJamboardを用いて意見だしを行なった。



- 各自他グループのJamboardを見て共有した。

- ・各県国際協力推進員の案内および JICA 九州フェイスブックの案内

➤ 福岡県・大分県の国際協力推進員の案内を行なった。

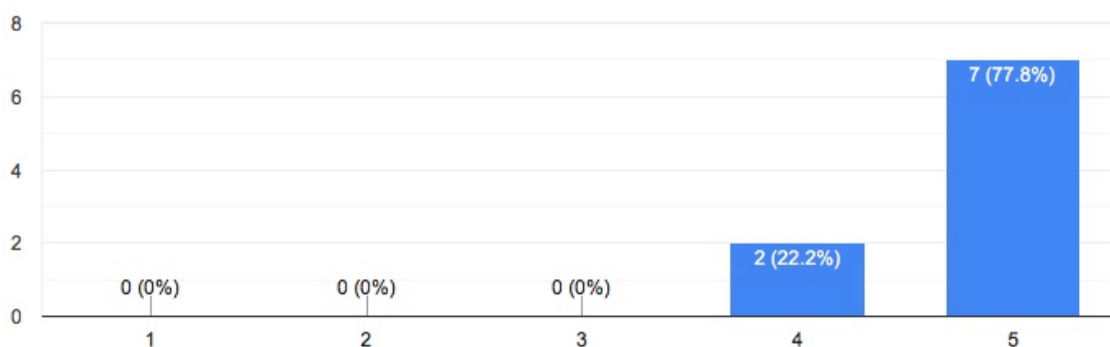
・閉会

➤ 事務連絡の後閉会した。

■学びあい編 第1回目 アンケート結果（11人中9人回答）

◆本日の研修の満足度をお教えてください。

（「1：あまり満足ではない」～「5：大変満足である」までの5段階）



◆上記についての理由をお教えてください。

- ・お二人の実践を拝聴し、教科教育の中でのSDGsの取り扱い方を学べたから。
- ・新たに知ったことや学んだことがたくさんあったから。また、いろんな方の話が聞けたらから。
- ・各地で頑張っている先生の存在を知れた。授業実践が参考になった。
- ・自身の実践のふり返りにもなりました。また、意欲のある先生方のご意見をきけて元気になりました。今後の情報共有の場を調整役が推進員が担うというアイデアとってもいいですね。あとは、その情報共有したい人が、実際につながれたら素敵です。
- ・色々と学びがありました。
- ・初めて参加しましたが、このような機会がない限り聞けない話や出会えない方々ばかりだったので、大変価値ある時間となりました。
- ・情報交換ができた。
- ・具体的な教材を詳しく教えていただいたので。

◆本日の内容のどのような点が、授業を実施するにあたって特に役立ちそうですか？

- ・田淵先生と同じ単元の実践を控えているので、授業展開やゲストティーチャーとの出会わせ方が役に立ちそうです。

- ・内容も大事だが、単元の組み方や児童・生徒の反応が参考になる。
- ・小学生へのアプローチ。実践内容。知識が土台となって興味関心→ジブンゴトになっていくこと
- ・林先生のように教材を残して共有することがとても勉強になりました。実際にわくわく教材ランドをのぞいてみようと思います。みくりや先生の実践も楽しみです。
- ・田渕先生のスライドがわかりやすく今後のスライド作成に活かしたいです。
- ・田渕先生の単元導入で活用されたプレゼンは子どもの興味・関心や意欲を高める上でかなり有効であると思います。
- ・世界を自分ごと化するワークやツールなど
- ・オンラインでの進め方。
- ・授業や日常の学校生活での提示の仕方

◆その他、感想などがございましたらお願いします。

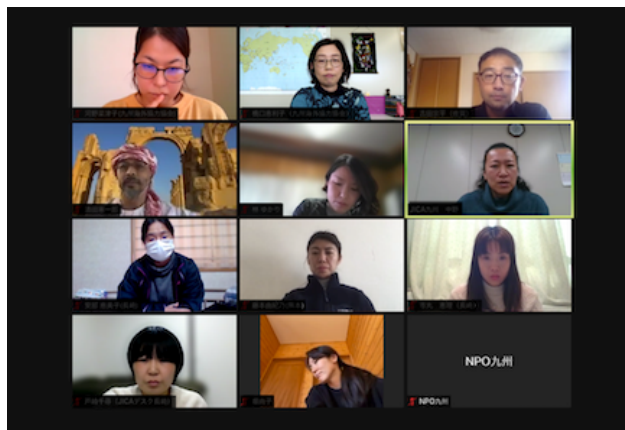
- ・貴重な学びの場を提供していただきありがとうございました。
- ・本日のブレイクアウトルームで一緒した方と、今後も繋がるには時間が足りなかった。
- ・大変参考になりました。駒ヶ根市には協力隊訓練所があるにもかかわらず市民も先生方も国際教育に関心が薄く、他人事なのでなんとかしたいと考えています。市の行政へ働きかけたり、訓練所に話に行ったりして動いている途中です。今後もこのような場があれば参加して、学びたいです。先生方の生きた実践はとても参考になりました！たくさん実践を見ることができれば、自分にも出来るかもと思う先生が増えて国際教育がもっと広がっていくと思います。今日実際私も授業作りのヒントになりました。ありがとうございました。
- ・少しでも JICA 九州や協力隊の経験が教育現場に還元できるようになったらうれしいです。
- ・ジャムボードはズームのホワイトボードで代用できないかな...と感じました。背景機能がないので分けなどはできませんが。
- ・個人情報保護の観点から非常に難しいとは思いますが、例えば参加者の同意を得た上で所属先や連絡先等を共有できると、今後の具体的な授業実践につながると思います。オンライン研修の場合、終わった後のアフタートーク的なことがほとんどできません。本日参加されていた先生方は非常に豊富な経験の持ち主ばかりでした。魅力的な人材ばかりです。JICA などの機関に協力を仰ぐことに加えて、もっと気軽に教員レベルでの交流授業が実現できるといいなと思いました。

- ・大変勉強になりました。ありがとうございます。
- ・早くコロナがおさまって対面で研修ができれば嬉しいです。
- ・途中で失礼し、お礼も遅くなりましたが、参加させていただきありがとうございました。

■プログラムの内容 -第2回目（佐賀県・長崎県・熊本県の教員対象）-

<第1部>

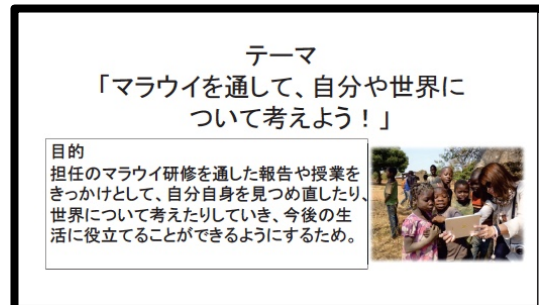
- ・開会、主催者挨拶：JICA九州 市民参加協力課 中野 由美
 - 進行の自己紹介ののち、JICA九州市民参加協力の中野職員が開会の挨拶を行った。



- ・研修趣旨及び目的説明
 - 第1回目と同じ。
- ・グラウンドルール説明
 - 第1回目と同じ。
- ・Zoomの使い方
 - 第1回目と同じ。
- ・講師紹介
 - 3名の講師について進行より紹介を行ない、その後講師自身が自己紹介を行った（講師は上述「授業実践発表 講師」参照）。

・授業実践発表①：吉田 宗平 氏（佐賀県教育庁保健体育課・学校体育担当）

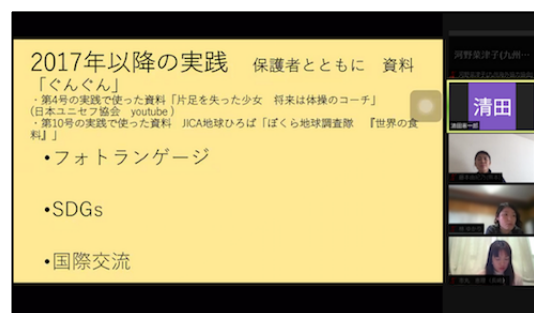
- 同氏は現在、県教育庁に勤務しているが、2016年度教師海外研修（マラウイ）参加時は県内小学校に勤務していた。同研修に参加しその際に感じたこと、またその経験を基にした、学級活動、道徳、人権集会、総合の時間など様々な授業での実践を紹介した。



- その後、「グローバルネットワーククラブ」を新設しワークショップを実施したり、「総合的な学習の時間（5年生）「国際理解」10時間の単元開発及び実践」を JICA デスク佐賀（国際協力推進員）や同僚とともに実施したりしたことを紹介。これらの事業を他の先生が引き継げるよう「単元（年間）計画」「ワークシート」を作成し、それらをアレンジ自由として他の先生へ共有した。
- 現職となり前任小学校からは離れているが、現在前任校での「総合的な学習の時間」は20時間の授業案と発展していること、また前任校で行っていた取り組みが他校へも広がっている事例を紹介した。
- いずれは JICA 海外協力隊や専門家として、日本での経験を開発途上国で生かしたいという熱い想いを語り発表を終了した。

・授業実践発表②：清田 憲一郎 氏（熊本市立帯山小学校）

- 2008年教師海外研修（シリア）に参加し、その後現在まで積極的に開発教育、国際理解教育に関わっている同氏による授業実践発表。最初に同氏が考える「開発教育（国際教育）」についてと、教師海外研修参加のきっかけなどを話した。
- ここ数年は小学校1、2年生など低学年の担任が多い同氏は、低学年では実施が難しいと思われる開発教育について、重要なのは保護者への働きかけであるとし、学級通信などを用いて保護者の理解や意識の



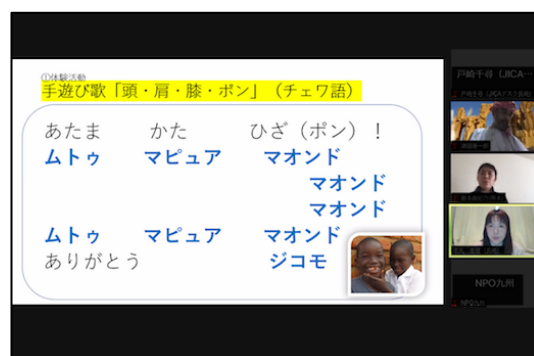
変化を促す方法を紹介した。

- また、絵本を用いて SDGs を理解する授業を紹介した。宿題の中で、親子で考えることにより小学校1年生でも開発教育は実践できるということであった。
- その他、インターネットを利用した海外との交流なども紹介した。
- 最後に、子どもたちは様々な事柄に対し機会がないと知らないままであることと「知るきっかけを作るのが自分の仕事」と話し発表を終了した。
- 資料として同氏が作成した学級通信や SDGs のワークシート例なども共有された。

・授業実践発表③：市丸 恵理 氏

(長崎市立西浦上中学校 担当教科：音楽・特別支援)

- 最初の事例発表者である吉田氏と同じ 2016 年度教師海外研修（マラウイ）で研修を受けた市丸氏による授業実践発表。マラウイの状況やマラウイで学んだこと、それらを元に実施した特別支援学校・中等部および中学校での授業を紹介した。
- 特別支援学校の体験活動の一つとして、マラウイの言葉（チェワ語）での手遊び歌を紹介した。オンライン上で参加者とともにいった。
- また授業では頭の上に物を乗せて運ぶ体験やマラウイの食体験、現地の写真を多く用いた掲示の紹介なども行なった。生徒がマラウイに関心を持つきっかけとなったが、あわせてそれらを通して感じた課題なども紹介した。
- 中学校では、JICA の教材を使用しアフリカの現状を理解することや、多様な考えや文化を理解するために実施したワークショップなどを実践したことを紹介した。
- 最後に、実践者である自分自身も悩みや課題があること、また自分が大切にしたいことを参加者に伝え終了した。



<第2部>

・グループセッション① グループディスカッション

- 最初に授業実践発表を行なった講師ごとにブレイクアウトルームで別れ、それ

それぞれのグループで話し合いを行なった。

・ディスカッション項目

1. 第1部での発表に対する質疑応答
2. 日々の授業（開発教育や国際理解教育、SDGsに関する学習）の中で困っていること

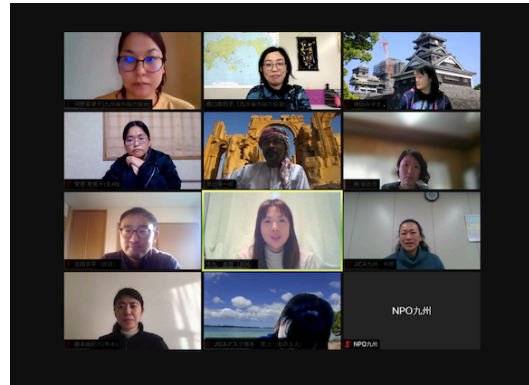
➤ 最後にメインルームで全員での質疑応答を行なった。

・グループセッション② グループワーク

➤ ネットワーク（情報共有・悩み相談の場作り）の必要性とその形について意識するために、最初に「教員間のネットワークは必要か？」という題材を元に、個人での意見だし→ブレイクアウトルームに別れてのグループディスカッションを行なった。

➤ どのグループも「必要」ということであったため、ではどのように「情報共有・相談等」をするのが良いと思うか、またその方法についてグループでディスカッションした。

➤ 出た意見を全体共有した。



・各県国際協力推進員の案内および JICA 九州フェイスブックの案内

➤ 佐賀県、長崎県、熊本県の国際協力推進員の案内を行なった。

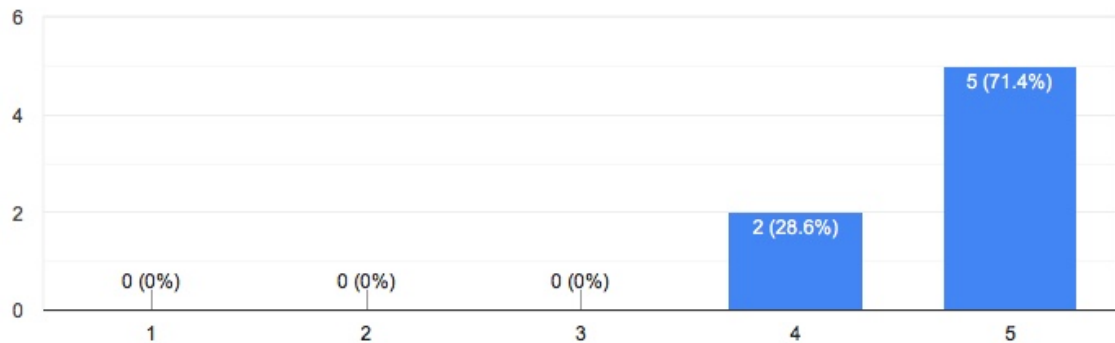
・閉会

➤ 事務連絡の後閉会した。

■学びあい編 第2回目 アンケート結果（9人中7人回答）

◆本日の研修の満足度をお教えてください。

（「1：あまり満足ではない」～「5：大変満足である」までの5段階）



◆上記についての理由をお教えてください。

・同じ県内で積極的に活動されている方の話を聞くことができた。「世界とのつながりを意識し、自分にできることを考え行動する」という開発教育の目的に気づくことができた。

・自分が知らない世界や手法を学ぶことができたから

・開発教育について、話題にする機会が、日頃、あまりないので、今日は、大変たのしい、有意義な時間を過ごさせていただきました。

・実践が豊富に聞けたから。他県の先生方とつながれそうだから。今後の活動のヒントが得られたから。

・多くの実践を聞けたから

・毎日の業務に追われ、広い世界に目を向けれてないということを認識しました。世界に踏み出されている先生方のエネルギーや、見てこられた世界や教育実践に刺激を受けることができました。ありがとうございました。

・いろいろな実践が聞けたから

◆本日の内容のどのような点が、授業を実施するにあたって特に役立ちそうですか？

・ブレイクアウトルームで話した際、日々の悩みについてたくさんのアドバイスをいただいた。

・SDGs や 100 人の村の実践

・吉田先生の実践の広がりや、と市丸先生の実践資料から、改めてヒントを頂きました。

・小学校の低学年でも特別支援学校でも、実践が可能なこと。保護者を巻き込むこと。ネットワークを作ること（職員室内、県内、九州内等）

- ・情報を得る方法、授業を通して子供たちに伝えたい思い
- ・広い世界を意識して、教材研究をしていきたいと思いました。
- ・JICAの方を通して、他国と日本の子どもたちが授業でやりとりしていたところ。

◆その他、感想などがございましたらお願いします。

・教師海外研修か、青年海外協力隊、いずれか参加したいと考えています。再開時期が分かりましたら教えていただけると嬉しいです。

・今日は自分が知らないことをたくさん知ることができ、あっという間の研修でした。これからは、自分が実践する側として動けるといいなと思いました。

・私事ながら、初めはネットの状態が悪く、大変申し訳ありませんでした。(最初の場所が良くありませんでした。)こんな世の中の状況の中で、開催にあたり、ご苦勞も多かったと思いますが、本日の研修を設定して頂き、本当にありがとうございます。多くのことを得ることができた研修でした。

・個人的には、実践発表も聞けたし、短いながらもグループでの話し合う時間もとれたのでとても充実していました。もちろん、対面でできればさらによかったですが、オンラインで得られる最大限の効果は得ることができました。ありがとうございます。

・今日はとても楽しく有意義な時間でした。本当にありがとうございます。

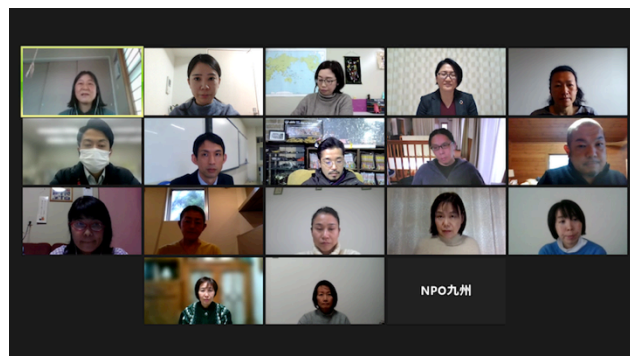
・勉強する機会をいただいて、ありがとうございました。

■プログラムの内容 -第3回目(宮崎県・鹿児島県の教員対象)-

<第1部>

・開会、主催者挨拶：JICA九州 市民参加協力課 平 知子 課長

- 進行の自己紹介ののち、JICA九州市民参加協力の平課長が開会の挨拶を行なった。



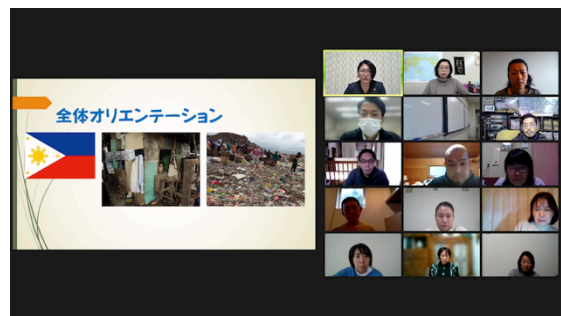
- ・研修趣旨及び目的説明
 - 第1回目と同じ。

- ・グラウンドルール説明
 - 第1回目と同じ。

- ・Zoomの使い方
 - 第1回目と同じ。

- ・講師紹介
 - 2名の講師について進行より紹介を行ない、その後講師自身が自己紹介を行なった（講師は上述「授業実践発表 講師」参照）。

- ・授業実践発表①：太田 京子 氏（延岡市立三川内小中学校 担当教科：英語）
 - 2012年度教師海外研修（フィリピン）および2020年度JICA地球ひろば主催国際理解教育／開発教育指導者研修の両研修に参加したことを元にした授業実践を発表した。
 - 最初に、フィリピンでの研修を経て行なった授業について紹介した。学級活動、科目授業、道徳などで実践を行なったことや、グリーティングカードでの交流やフィリピンの子どもたちのアンケートを用いた活動などを紹介した。生徒のアンケートでは「他人ごとではすませられない」など、今のSDGsにつながる様な考えの深まりを得られたことも語られた。
 - その後、JICA地球ひろば主催国際理解教育／開発教育指導者研修を経ての授業展開を紹介した。全10時間の単元のテーマは「SDGsの視点から、自分できることを考える」で、冒頭のオリエンテーションでは教師海外研修でフィリピンを訪問した際の話など、自分自身の体験を語ったことを紹介した。単元の中で行なった紙面発表や自己評価なども紹介した。
 - その活動を学校外の公的施設で展示し、多くの来場者の関心を集めることとなった。



- 現在の勤務校は小規模校であるが、今までの経験をもとに楽しみながら SDGs が理解できる授業展開を行なっていることを紹介した。
- 様々な取り組みには、縦と横の連携と点と線の繋がりが重要だと言及し終了した。

・授業実践発表②：祝迫 創 氏（志學館中・高等部 担当教科：英語）

- 2017 年度教師海外研修でマラウイを訪問したのちの授業について紹介した。同氏の勤務校は中高一貫の私立学校である。進学校で国際開発教育等を実践する難しさや、学習の必要性などを考えることもあったという話から始まった。
- 同氏と親交があり、開発教育を進めている他県の私立高校勤務の教員とともに「大切にしていること」をテーマとした授業例を紹介した。テキストマイニングなどを用いた視覚化ツールで実践した。
- 生徒の反応として、実際に同校に通う生徒にも登壇してもらい、生徒自身が取り組みを紹介した。
- 国際交流グラウンドデザインとして、生徒個人の目標に向かって段階的に行う学習計画の中での国際開発教育がどの様に影響するのか、また中学から高校までを一貫して見守ることができる状況を紹介した。
- 最後に、教師として生徒をどうデザインするか、生徒の夢を叶える仕事を担う仕事について言及し終了した。



<第2部>

・グループセッション① グループディスカッション

- 最初に授業実践発表を行なった講師ごとにブレイクアウトルームで別れ、それぞれのグループで話し合いを行なった。

・ディスカッション項目

1. 第1部での発表に対する質疑応答
2. 日々の授業（開発教育や国際理解教育、SDGs に関する学習）

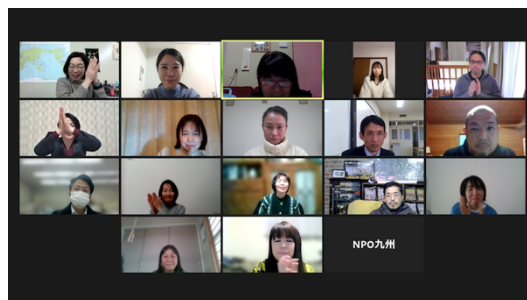


の中で困っていること

- 最後にメインルームで全員での質疑応答を行なった。

・グループセッション② グループワーク

- ネットワーク（情報共有・悩み相談の場作り）の必要性とその形について意識するために、最初に「教員間のネットワークは必要か？」という題材を元に、個人での意見だし→ブレイクアウトルームに別れてのグループディスカッションを行なった。
- その後、各グループで発表した。どのグループも「必要」ということであったため、ではどのように「情報共有・相談等」をするのが良いと思うか、またその方法について Jamboard を用いて意見だしを行なった。
- Jamboard を見ながら全体共有した。



・各県国際協力推進員の案内および JICA 九州フェイスブックの案内

- 宮崎県、鹿児島県の国際協力推進員の案内を行なった。あわせて、参加していた両推進員からも JICA デスクの紹介とコメントがあった。

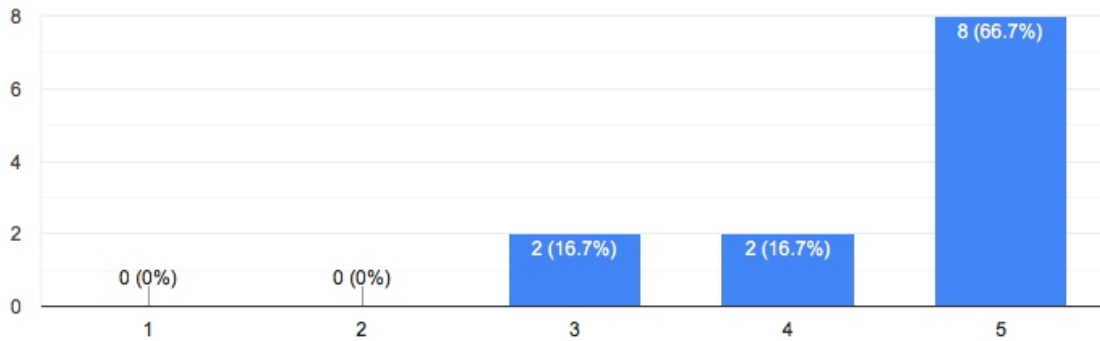
・閉会

- 事務連絡の後閉会した。

■学びあい編 第3回目 アンケート結果（16人中12人回答）

◆本日の研修の満足度をお教えてください。

（「1：あまり満足ではない」～「5：大変満足である」までの5段階）



◆上記についての理由をお教えてください。

- ・具体的な実践を学び、先生方とネットワークを作る機会になったので。
- ・初めての JICA 九州での研修参加でした。今後も機会があればぜひ参加したいです。
- ・1. 発表されたお二人+1 の先生方のお話がとても興味深かった。
2. JICA のタイムスケジュールの設定がよく、グループセッションも少人数でよく意見交換ができた。
- ・今回は、講師を務めるという貴重な機会をいただき、ありがとうございました。先生方に少しでも参考になるものがあればとの思いで発表させていただきました。グループワークでも宮崎の中高の先生方と意見交換ができ、とても参考になりました。対面だったら良かったなどの思いがあり、4になります。
- ・他県の先生方と JICA とのつながりを作ることができた。
- ・実践発表だけでなく協議もあり質疑応答もできたので。
- ・授業実践について知れたり、情報交換ができたため。

◆本日の内容のどのような点が、授業を実施するにあたって特に役立ちそうですか？

- ・教員間の連携、学年全体での取り組み方、学校行事での組み込み方
- ・内容について、またワークショップの進め方についてもそれぞれに新しい学びがありました。
- ・三年間を見越しての国際理解教育の計画の立て方。
- ・私は、あまりパソコンなどに詳しくないため、詳しいご説明が聞けなかったのは残念ですが、祝迫先生のご発表や、最後のグループワークで示されたキーワードにあるようなツールを教えていただき、有難かった。できれば、使い方も教えて頂けると嬉しい。桑野先生が言われていたメタバースは気になります！教えてほしいです！

・授業に直接的ではないにせよ、データで証明することができないことについて、今回の実践例により効果的であることを実証できたので、論文化する際の一つの論拠となる可能性が高まった点で授業に役立ちそうである。

- ・グループワークなど
- ・総合での国際理解教育の進め方。

◆その他、感想などがございましたらお願いします。

・今日はありがとうございました。開発教育に関する実践に取り組んでおりますので、実践発表など、お呼び頂ければいつでも行きます！＼(^o^)/

- ・ 1. 発表された先生方のお話、プレゼン、とてもわかりやすかったです。国際理解教育に興味関心のある私達のために、忙しい中、準備頂き、有難うございました。
- 2. スタッフ皆様の運営がとてもスムーズで、先生方の発表やグループセッションに、心地良く、集中して参加できました。学校でオンライン開催で講話する際、自分が中心になって進める時はそうありたいと思いました。

今日は、貴重な時間を共有させて頂き、有難うございました。

・今回は、実践を発表する貴重な機会をいただき、ありがとうございました。自分の実践を改めて振り返ることができ、実践に協力してくださった方々や一生懸命考え、取り組んだ生徒たちへの感謝の気持ちを新たにすることができました。橋口さんをはじめ、スタッフの皆さま方、大変お世話になりました。ありがとうございました。今後も、学びを進めていく上で、お知恵やご助言をいただけるとありがたいです。今回は、本当にありがとうございました m()m

- ・いろんな先生方と話す機会があり有意義でした。ありがとうございます。

以上